

国際ロータリー第2740地区

## クラブ雑誌委員長会議報告



日時 2003年3月29日(土) 13:00~16:00  
場所 ハウステンボスJR全日空ホテル  
主催 地区ガバナー 隅田 達男  
地区情報・広報委員長 太田 善久

講師 ロータリーの友 地区委員 小濱 正美  
特別講師 ロータリーの友 編集長 二神 典子

# 会 議 次 第

12:00 登 録

事前協議会 (役員・実行委員)

13:00 開 会

司 会 地区情報・広報委員 木 場 耕 志

1. 開会の辞 地区情報・広報委員長 太 田 善 久

2. 国歌斉唱

3. ロータリーソング 奉仕の理想

4. 出席者紹介 地区情報・広報委員 田中丸 治 樹

5. 地区ガバナー挨拶 ガバナー 隅 田 達 男

6. 議 事

① 報 告 ロータリーの友 地区委員 小 濱 正 美

I 地区会員に対する

「ロータリーの友」誌アンケート集計結果

II クラブ雑誌委員長に対する

「ロータリーの友」誌アンケート集計結果

② 特別講話

「新しくなったロータリーの友」 ロータリーの友 編集長 二 神 典 子

③ 質疑応答

7. 地区ガバナー所感 ガバナー 隅 田 達 男

8. 閉会の辞 地区クラブ奉仕委員長 安 福 鴻之助

以 上



## 【地区ガバナー挨拶】

ガバナー 隅田達男

皆様こんにちは、二神さんどうもありがとうございます、わざわざお見えいただきまして。小濱先生どうもありがとうございました。私はこの委員会が開かれるということ、まったく予想もしなかったのです。勉強不足で申し訳ございません。それで、開催される事を予想してなかったために、田尻地区幹事と共に予算措置を全くしてなかったんです。けしからんですね。これは。反省してます。だけど、地区幹事の才量で開催出来るようになって本当に感謝しております。

さて、皆様『ロータリーの友』というのはどういうものでしょうか？ロータリアンであるのに3つの条件があります。1つは会費を払って下さい。例会に出席して下さい。『ロータリーの友』を読んで下さいという事です、この3つはロータリアンの義務としてR Iからロータリアンになった方々、ロータリークラブに入られた方々は守るべきと事として、始めから義務づけられていることでございます。けれども『ロータリーの友』を読むということだけは中々行われておりません。私もガバナーエレクトになるまでは、丁度例会の時にこれが配られてきます、卓話が幸いに面白くなかったときだけ、『ロータリーの友』を読んでいました。それもチョロチョロチョロッと写真を見まして、卓話が面白いと読まないんですね。やはり卓話が面白くないということも非常にいい事なんですよ。『ロータリーの友』を読みますから。それと、やっぱり自分のクラブが載ってればと読みますよね、或いは自分の写真が載っていると、もう目を皿のようにして見ますよ。だから、私は『ロータリーの友』というのは皆様方に興味を持っていただくには、やはり各クラブの事をいっぱい載せる、写真をたくさん載せるということが必要だと思っております。そうしないと中々読んでいただけない。一昨年、私がガバナーエレクトになったときに、何を勉強すればいいかなと考えたときに、R Iから、こんなに厚いガバナーエレクト研修何とかというのが来ました。読めるもんじゃありません。読んでません正直言うと、だから何にも知らないんです。だけどこの『ロータリーの友』だけを読んどけば、決して心配することはないという事を、武井バスターガバナーがおっしゃいました。自分は5年分読んだということを持っておられるんですよ、5年分ずーっと、全部サインペンで大事なところだけに印がついてるのです。だけど私は5年分も読めないから、まあ自分の持ってたものをずっと読んできました、読んで見ると確かにいい事が書いてあります。けれども今までの『ロータリーの友』というのは、ちょっと小さかったです。あれはB5だった。今度からA4になりましたね。うわあ、これは凄いことやったなと私は思った。私は皆様御存知の通り変えることが好きな男でございますので、変わると非常に嬉しいんでございます。ころっと変わった。誰がこんなことやってんだろうと思ってたら、ガバナー会の時にだったか、二神さんに初めてお会いしたら、編集長だと言われる。はあ、こんな若い女の方が、こんな改革が出来たなと思ってびっくりしました。やっぱりやり手なんですね、こんななよなよ

してるけど。皆さん、がらり変わったでしょう内容が、もちろん読んでらっしゃらないと変化がわかりません。今のは、もちろん読んでらっしゃるだろうけど。変わってますよ、がらりと。非常に面白くなりました。だから私も、この頃は良く読んでます。特にガバナーになると自分のことが載ってくる可能性が多いものだから。良く知ってる人が載るから見るんですね。やっぱり知ってる人が載るといことは、見るということ、非常に良い事です。読みやすくなった。皆様方に小濱先生から『ロータリーの友』に関するアンケートがいったと思うのですけれども、アンケートの内容はいろんな事で、良い点がたくさん書いてあるし、ここはこうしたが良いという事も書いてあったように思いますけれども、中々難しいと思うんです。100%の人を満足させるということは、このロータリーの世界では絶対出来ません。そう思われませんか？

例えば、私が6つの分区から10のグループに編成し直したということだって、100%満足じゃないと思うんです。90%満足だと。だけど、普通は51%満足だったら結構だと思うんです。そうじゃないと皆さんに満足させるということは、絶対出来ないと思ってます。というのは、皆さん一国一城の主、いろんな思想、哲学を持っておいでになるところにですね、全然別の人間がこうやって下さいなんて言ったって、あんな馬鹿なこと言ったって聞けんなど、おっしゃる可能性が多分にありますから、それはそれとして認めざるを得ないと思っております。とにかく『ロータリーの友』を読んでいただきたい。読めば自ずとロータリーはわかるということ。そして皆さん、広報というのは本当に大事という事。皆様、私はポリオ撲滅の時に話したと思うのですけれども、アメリカの前大統領カーターさんが、ポリオ撲滅に関する自分の業績その他を、ナショナルジオグラフィックという雑誌に載せています。それで、1985年、88年こういうふうになって、ポリオ撲滅を世界中にやったと。そして、かくかくたる成果を挙げて、現在はこれだけに減ったと。アメリカ政府がやった、WHOがやった、ユニセフがやったとあります。だけど、ロータリーの口の字も出てこないんですよ、その論文の中に。という事は、ロータリーがいかに広報が下手であるかということ。まあ日本人はそれを隠れた美德ということで、良いという事にしてたのかも知れませんが、少なくともこれだけ我々が努力してポリオ撲滅しようとしてるのにですね、前大統領のカーターさえ知らないということが情けなかったです。だから皆様どうかこの『ロータリーの友』をよく読んで、そしてロータリアン以外の人にも内容についていろんなお話をさせていただいて、我々を、あなた達は、“金持ちが昼飯食いに集まって、だべってるだけじゃないか”とおっしゃいますが、こんな良い事もやってるんだということ、ぜひ知らせていただきたいと思えます。そうしないとロータリアンとしての意味がない。そしてロータリーを楽しんでいただかなければいけない。二神さんがここにいらっしゃるけれど、たぶん楽しんで『ロータリーの友』を作ってらっしゃると思うんです。それと同じように我々もロータリアンとしての生活、ロータリークラブの活動をぜひ楽しんでやろう、おもしろかったな、良かったなと。先程ガバナー補佐の志賀さんが、任期が終わるころになってガバナー補佐をやとって良かったなと思いたしたとおっしゃいました。皆様方も今委員なさってるけども、任期が終わるころになると、はあ委員をして良かったなあと思われれる。ねえ志賀さん、ガバナー補佐を体験して良かったですよ、最初は嫌で嫌でたまらんかったけど、今になってみるともう一期やってもいいなあと思うくらいになるんですよ。だから皆様どうか今後とも宜しくお願い致します。どうもありがとうございました。



## 【 報 告 】

ロータリーの友 地区委員 小 濱 正 美

皆さん、こんにちは。この春うららかな、しかも春休みの時期に皆さん何かと御他用の中を本日のこのクラブ雑誌委員長会議に御出席を賜りまして誠にありがとうございました。まずもって御礼を申し上げます。

只今、御紹介をいただきました本年度ロータリーの友地区委員を仰せ付かっております長崎南クラブの小濱でございます。本日の地区内クラブ雑誌委員長会議を執行されました隅田ガバナー、田尻地区幹事、安福クラブ奉仕地区委員長、太田情報・広報委員長さんをはじめ御出席のクラブ雑誌委員長の皆様に心から感謝申し上げます。与えられました時間が丁度45分でちょっと長丁場でございますが、丁度この春うららかな時期でございますので、又食後でもございますので、どうぞお眠りいただいて結構でございます。今日のこの報告の要旨は、この作りました冊子の中にだいたい入れておりますので、後でお帰りになってからお読みいただければ幸いです。

第1回のアンケート調査は、昨年12月15日付で各クラブ会長さん宛にクラブ雑誌委員長さんとお話し合いの上、クラブ会員の『友』に対する率直な御感想をお聞かせ下さいというアンケートを送りました。締め切りを一月後の1月20日としてまとめてみました。その内容は東京で行われました11月の『友』の合同委員会の席上、大阪の千里ロータリークラブの丁度同じ卓で同じグループ討議をしておりました神前委員から提供されましたアンケート要旨がとても良く出来ていたものですから、それに據ったものでございまして3頁にとじ込んでございます。どうぞ3頁をお開き下さい。『ロータリーの友』に関するアンケート1、2、と書いてありまして後でも申し上げますが、殆ど記事内容についての感想が主でございます。第2回目のアンケート調査は、本年2月のやはり東京で行われました『友』の合同委員会で、『友』委員会より各クラブ雑誌委員長さん宛のアンケート調査の要望がございまして、本日のクラブ雑誌委員会議までに何とかまとめあげたいと思い、時間的な余裕があまりございませんので、御返事の遅いクラブには度々ガバナー事務所より催促を致しまして、何かと御不快な向きがあられたのではと大変恐縮をしております。この席をかりまして改めて御詫びを申し上げます。

第1回のクラブ会員に対するアンケートの集計結果は、58クラブ中、各会長さん宛に出したのですが53クラブ、未回答が5クラブございましてこれは4頁に書いてありますが、回答率は91.4%、それから各クラブ会員の平均回答率が36.1%でございます。甚だ低率で申し訳なかったんですが、時間的な余裕があまりなかったのが一つの原因かと思われまます。それから、第2回の雑誌委員長さん宛のアンケートの回答は、おかげさまで100%の御回答をいただきまして皆様方の御尽力御協力を心から感謝申し上げます。隅田ガバナーにも、又本日遠路東京から御越しいただきました、友の編集長の二神

さんにも何とか顔向けが出来たのではないかと内心ホッとしてるところでございます。アンケート集計結果御報告の前に、後で二神編集長さんからお話があるかと思いますが、『ロータリーの友』の組織につきまして皆様御存知の方も多と思いますが、簡単に説明をさせていただきます。

昭和28年の1月に創刊を致しましたこの『友』は、本年1月丁度創刊50周年を迎えましたが、この3月号で通巻603号になります。昨年12月末現在の日本のロータリークラブは地区で35地区、クラブ数で2319クラブ、110,792名のロータリアンが『友』を読んでいることになりますが、我が地区では本年1月末現在で2,830人、本日のアンケート調査の結果によりますと、1月20日現在では2,832名となっております。この会員が『友』を購読しているわけでありまして。ガバナー月信の第5巻10月号に友の地区委員長就任の御挨拶を私述べさせていただきましたが、『ロータリーの友』の発行権は地区のガバナーにあります。案外この事は御存じない方も多いいんじゃないかと思いますが、重ねて申し上げますが、『ロータリーの友』の発行権は地区のガバナーにあります。そしてロータリアンは先程ガバナーも述べられましたが、R Iの公式地域雑誌『ロータリーの友』を購読する義務があります。この事は手続き要覧にも明記してあります。隅田ガバナーが本年度『ロータリーの友』の発行権者でありまして、やっぱりガバナーというのは偉いんだなあと改めて隅田ガバナーを尊敬の目で見つめてるところでございます。

『ロータリーの友』の運営は、友の委員会と友の事務所からなりまして、友委員会は中山義之委員長の下で、特別顧問、それから顧問、この顧問の中には当地区の福井順直前ガバナーも入っておられます。先日のガバナーの誌上座談会で司会も務めておられたようでございます。隅田ガバナーも確か出ておられました。その他に常任委員、地区委員という組織からなりまして地区委員は地区から1名、計35名が大体2ヶ月に一回東京で合同委員会が開かれまして、私もその都度出席をさせていただいております。友の事務所の方は本行所長さん、今日お越しの二神編集長の他にスタッフが何人かおられまして運営にあたっておられます。本日は地区としては恐らく初めてではないかと思いますが、この友から二神編集長直々に遠路お越しをいただきまして後ほど“新しくなった『ロータリーの友』”ここに垂れ幕も掛けてありますが、こういう演題で特別講話を戴くことになっております。御静聴をお願い致します。また折角の機会でございますので、この『ロータリーの友』について御質問、御要望などありましたら、皆様方のアンケートの中にも載せておりますが、どうぞこの席でも御遠慮なく編集長にお聞き戴きたいと思っております。

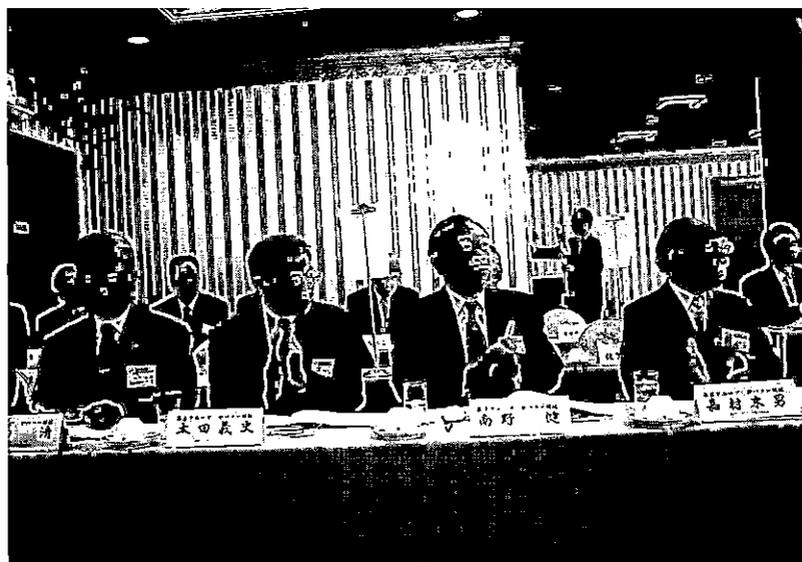
前置きがだいぶ長くなりましたが、本論のアンケート回答に入らせていただきます。一応本日の会議用に作成しまして皆様のお手もとに差し上げてありますが、この小冊子の順序で進めて参ります。この中に皆様方からいただきました貴重なアンケートを1部2部と載せておりますが、順序から申し上げますと各クラブの会長さん宛のアンケートを1、それからクラブ雑誌委員長さん宛のアンケートを2という順序ではありますが、本日のメインはあくまでも御出席のクラブ雑誌委員長様方のアンケート集計結果が主でございますので、まずこの2を先に御報告させていただきます。1の会員向けのアンケート集計結果、これは後段で述べさせていただきます。

まず10頁をお開きいただきます。2月に東京で行われました地区委員の合同会議で要望のありましたクラブ雑誌委員長宛のアンケートの要旨でございます。設問1～9まで2枚綴りとなっております。

それから、12頁に皆様から戴きました御回答を資料3. 集計一覧表として数字でお示しいたしました。設問中、回答の中でカタカナのイとか、ロとか、ハという記号がございますが、これは一覧表の掲載上すべて数字の1、2、3に、イを1、ロを2、ハを3として表示致しました。御了承いただきます。13頁に入ります。設問1の前に各クラブの会員数と毎月の購入数の問いかけがありました。もう一辺前の頁の一覧表に返っていただきます。左からクラブ名、回答の次に会員数、『友』購入数、+-という欄を設けました。この『友』購入数につきましてはロータリアンの義務として会員数と同数、又はそれ以上がクラブで購入されるはずですが、実数はちょっと違うようでございます。『友』購入数がクラブ会員数より少ないクラブをマイナスクラブと申しまして、9月の東京で行われました合同委員会の席上、各地区の実情が一覧表にして私どもに渡されました。隅田ガバナーにも御報告いたしました。その時点で当2740地区のマイナスクラブは7クラブありました。今回の調査ではこのマイナスクラブは4クラブに減っております。増減無し、すなわち会員数と購入数が同じクラブは0で示しておりますが、これが23クラブ、会員数より余分に購入載っているクラブは31クラブで全体の53.4%になります。ベスト5は、伊万里クラブの+12、大村クラブの+11、北松浦と長崎西両クラブは共に+10、唐津西の+8でございます。購入数が会員数より少ないクラブは、このマイナスクラブというのは、恐らく会員数の減少とか他にクラブの御方針とか御事情があらうかと思いますが、後で太田委員長さんから質問の時間にでもお伺いしていただければ結構かと存じます。

では、設問1から順次御報告いたしますが、時間の都合上要点と言いますか、興味のある回答を重点的に御報告させていただきます。設問1：これは13頁に戻ります。『友』を毎月何週目に配布していますか？、1週目が41クラブ70.6%、圧倒的に多ございます。次いで2週目が9クラブ、1～2週目が2クラブ、3週目が1クラブ、1～4週目が2クラブでございます、又4週目が1クラブでございます。1乃至4週目というのは、私の所属クラブでもそうですが、月末の『友』の新月号が届きまして月が変わってない週に例会があった場合に配布されることがよくあるように思います。

設問2：「配布の際、雑誌委員長が内容を解説しておられますか？」、これは、資料3の集計一覧表をご覧いただければおわかりのように、12頁でございすね、解説していない、これは数字の2で表示しておりますが38クラブ65.5%で圧倒的に多く、解説しているクラブは20クラブ34%でございます。



解説されているところは、3～5分が最も多く、中には10～20分のクラブもございます。面白いところでは佐世保クラブ、これは西村さんの委員長さんのところですね、新会員さんが交代で3分ずつ位解説されているところや、佐世保南クラブ、これは梁瀬さんの委員長されてるところですね、この佐世保南のように理事、役員の方に『友』の読後感をお願いされているところもございます。解説されていないところでは、会長が代行されたり、又長崎北クラブこれは委員長さんは三木田さんでございますが、この北クラブさんのように2ヶ月に1度、卓話時間に2名交替で解説されているところや、大村北クラブ、これは佐藤委員長さんのクラブのように、お薦め記事というのをプリントで配布されているという所もございます。

次は設問3に入ります。「『友』の購読はロータリアンの義務である事を御存じない方が居ると思えますか?」「御存じない方がいる」とこれは数字では1で表示しておりますが、8クラブ。「そういう人はいない皆購読の義務は知ってるよ」というクラブは、40クラブ68.9%ですから殆ど7割近くのクラブの会員は御存知のようでございます。「義務であることをどうすれば知ってもらえるか?」という問いかけには、説明する以外にはない、また新会員研修時または例会時のロータリー情報などで伝える、配付時に会員に向けてアピールする、今日びの若者は活字を読まなくて困るぞという御意見も寄せられました。

それから、14頁の設問4に入ります。「『友』を毎月どの程度お読みになりますか?」と、この問いかけには、一通り目を通して興味のある記事を読むというのは大多数の御回答でございまして、中には佐賀西、これは委員長は浜田さんでございますか、大村北・佐藤委員長さん、唐津西・松本委員長さん、こういう3クラブのように毎月楽しみに精読されてるという模範的な委員長さんもおられます。余り読まないというクラブは7クラブあります。次のこの◎がしてあります「ロータリアンによく読んでもらう為には、どうすればよいとお考えですか?」この問いかけは「友は?」それから「クラブは?」次は「ロータリアンは?」という3つの問いかけがなされてます。この「友は?」には、興味ある、感動するものを、親しみやすい記事を、これは佐賀西さん、武雄、佐賀空港、鹿島、長崎出島その他多くのクラブがそういう答えを出していらっやいます。もう少しだけ面白い記事を、これはHTB佐世保さんですね、それから大村北さんの縦組の増ページが望ましい、それから経営セミナー的な記事が欲しい、人気が出るコーナーを増やして欲しい、これが『友』に対する要望でございます。次はクラブはどう対処したら良いんでしょうかという問いかけには、『友』への投稿にチャレンジする、『友』をよく読んだら判るというクイズを作り、魅力ある賞品を出す、これは確か唐津西さんですね、非常にユニークなアイデアじゃないかと思えます。クラブ全体で啓蒙すべき、良い記事は週報で紹介する、北松浦、島原他のクラブがございまして。それから雑誌委員会でもっと積極的に『友』のPRを、雑誌委員長にはヤカマシイ、やる気のある人をぜひ、というこれは松浦クラブと長崎南クラブ他2～3のクラブがあります。自分のクラブの奉仕活動をPRして掲載されるように努力する、これは佐世保北さんでございます。では最後の「ロータリアンは?」という問いかけには、もっと気楽に親しみを持って読んで欲しい、諫早北クラブ、ロータリアンがその気になる、読む気になるのが必要である、これは長崎南、多久クラブ、ロータリアンが『友』にドンドン寄稿する、一度は全て読んでみて自分が興味ある企画や内容を見つけだす、ロータリアンが『友』のページを開く、読む

という習慣をつける、これは佐世保南クラブさんですね、ロータリアンがお互いに記事の紹介をする。以上が設問4に対するお答えでございます。

次は15頁に入りまして、設問5：「クラブ雑誌委員長として今年度特に力を入れていることは？」というこの問いかけでございますが、この中にはクラブ雑誌委員長として、今年度特に力を入れていますよというのが列挙されてますが、まず、今年度より始めた新会員による『友』内容卓話を、これは佐世保クラブ、西村さんのところですね。それから本年度創立30周年を迎え関連記事を投稿、あと云々ということは松浦クラブさん、これは百武さんのところですね。それから『友』の中の良い記事を抜粋してコピーにとって毎月クラブ会員に配付する、これは長崎南クラブの宮崎さん、それから入会3年未満の会員による『友』の読書感を発表する、これは唐津中央クラブ峰さんのところですね、また多久クラブさん、下田さんの所では、初代会長さんに先に『友』を読んで貰って、例会で発表してもらう、などなど雑誌委員長として皆様の御努力が伺われます。長崎北クラブさんのように、2ヶ月に1度、卓話時間に会員2名が交替で『友』を解説、断る方もいて中々スムーズにはいかないんですよと苦心談もいただいております。

次は設問6：に入ります。「雑誌委員長の立場で『友』をどのように活用したらよいか、また、活用事例は？」という問いかけには、公共の施設、図書館、銀行、郵便局、病院などに設置又は寄贈して一般の人にも読んでもらう。また、企業、事務所などの朝礼でスピーチの題材に起用する。また、佐世保クラブさんのように各自の判断に任せるという答えもありました。これまた一つの見識ではないかと思われます。その他活用事例を列挙しておりますのでゆっくりとお読みいただければ幸いです。

16頁に入ります。設問7：「パソコンなどでRotary Japan Webのホームページを見たことがありますか？」という問いかけには、資料3の集計一覧表の1番右の設問7の欄にあります、ホームページを見たことがあるというのを1、それから見たことはないというのを2で表示しております。すなわちホームページを見たことがあるという委員長さんは14名24%に対して、見たことがないという方々は44名75.8%で大部分のクラブ雑誌委員長さん方が見ておられません。ホームページを見た方の感想は、よく出来ている、これは多久クラブの下田さんですね、ロータリーに対して認識が深まった、これは伊万里西クラブの安藤さん、雲仙クラブの石田さんのところですね、ロータリーの全てが集約されている、これは長崎出島の今村さん。資料のダウンロードに大変役立つ、これは福江クラブの北島さん。また見たことのない感想としてはそれぞれの思いや色んな御事情が列挙されております。未だアクセスしてないが出来るだけ早くページを開きたい、これは平戸クラブ、知らなかった、年だナー。小泉首相の時にはみるんだが、これは神埼ほか諫早多良見、大町、唐津、佐賀南、佐賀北のクラブさん。メールを取り扱っていない、インターネットをしていない、パソコンを持っていない、これは佐世保西クラブさんをはじめ7~8クラブさんですね。Webサイトの検索をしても時間がかかる、これは佐世保南クラブさん、何か堅いイメージがある、HTB佐世保さん。苦手、時間がない、自営のため多忙、暇が無い、怠ってる、不熱心なだけで、事務局のメールによる、パソコンを利用していない等々の御感想が寄せられました。それぞれの思いや御事情が列挙されている様でございます。

次は設問8：に入ります。「新しい『友』誌についての感想」本日、二神編集長さんの特別講話

「新しくなった『ロータリーの友』」にも関連しますので、編集長も真っ先にこの欄をお読みにしたことと思いますが、佐賀大和クラブこれは上野さんのところを始めとする25クラブ雑誌委員長さんがお答えになっていますように、サイズが大きくなりレイアウトが良くなり、以前より大変読み易くなった。A4サイズになったので他の印刷物や冊子と並べやすいと大多数の委員長さんやロータリアンに歓迎のようでございます。その他良くなった点として、文字・写真が大きく時流に合ったスマートな本になった、特に表紙のデザインのセンスが良い、行間が広く見やすく、写真の掲載が多くて判りやすい、17頁にも書いてありますが、「わが社の経営理念」「私の宝物」は人気があり、経営上、生き様の上で大変参考になる、これは長崎南クラブの宮崎さんと東長崎クラブさん、それから改善されている努力を感じ、大変なご苦労がよく判りますと、これは長崎クラブと武雄クラブさん。このような非常に喜ばしいご回答がある反面、未だ堅いイメージ、カットなどが古くさい、佐賀大和さん。もう少しイラストなどを入れてくれた親しみやすいものにと、それから会員の多くは出張される方が多いので移動中に読める様なコンパクトサイズがよい、これは長崎北クラブさんですね。横書き・縦書き・両開きはなじめない、開いて直ぐのRotary at Workの写真が続くのは如何なものか？これは諫早多良見さんでございます。それから全般的な意見の中から主なものを3つ、これは松浦クラブの百武さんの、今の『ロータリーの友』は最高！と。それから佐世保南クラブの梁瀬さんの、読めばなかなか良い雑誌だなど。唐津東クラブさんの岩崎委員長さんの新会員に対して良いテキスト、この3クラブの雑誌委員長さんの意見に、この設問の答えは集約されているように感じました。もう一つ、全国規模の真摯な奉仕活動が手に取るようによく判り、新設部門の「わが社の経営理念」は企業の為になることが多く、「私の宝物」は楽しく読んでいる。また「言いたい聞きたい」欄は『友』の必読記事でロータリーのあらゆる部門の勉強と理解と反省のたたき台になる、これは長崎南、東長崎、長崎中央この3クラブの委員長さんのお考えでございます。それから、2番目にA4版サイズになり見やすく、読みやすくなったし、内容も豊富。RI指定記事の文字を目次欄に大きく入れたら、長崎クラブさん。それから「友愛の広場」の内容を充実して欲しい、手続き要覧の内容変更などを判りやすく記載して欲しい、それからContents（目次）を1頁にしたほうが良いとか、俳壇・歌壇・柳壇を除き全て横書きに統一したらという非常に勇ましい諫早多良見のご意見等もでございます。サイズが変わり読みやすくなった反面、持ち歩けないので読まなくなった、B5版が便利、これは長崎出島、同じく長崎出島の委員長さんからの新企画も良いもので有意義な内容、プロの書き手による「読ませるコーナー」もあってよいのでは、というような非常に貴重なご意見もいただきました。以上で雑誌委員長さん宛の集計結果のご報告を終わります。

後、ガバナーのお話が早く終わりましたので、もうちょっと時間がありますので地区内の会長さん宛にお送りしました地区内会員宛のアンケート集計結果、すなわちアンケート1のご報告を時間のゆるします範囲でご報告させていただきます。会員向けのアンケート回答内容は今まで述べました雑誌委員長さん宛のアンケート内容を総論的な見方と致しますと各論的になりまして『友』の記事内容についてRotary at Workから「わが社の経営理念」まで10部門に分けてお一人お一人の個性ある回答がたくさん寄せられました。アンケート集計結果の1として4頁～9頁まで収録記載しておりますので、お帰りになってからでもゆっくりお読みいただきたいと思います。集計結果から見ますと大体同じよ

うな感想、ご意見、ご要望が多いように思います。

まず3頁の設問1：の「本年7月号から誌面を一新（A4変型判、中綴じ）しましたが、以前の号と比較して、イ.良くなった、ロ.変わらない、ハ.悪くなった、この問いかけには良くなった88.6%、変わらない11.4%で、悪くなったのは幸いと申しますか0でございました。全体的な感想としては、内容・形態では、良くなった、字体が大きくなり大変読みやすくなり、目が疲れない、年輩の私も含めてそうですが会員には大変読みやすいと。すっきりとした体裁と豊富な内容で、好感が持てる。内容が充実、刷新された、明るい印象。親しみやすい表現（タイトル）が良い。誌面のサイズが大きくなったことにより、一つの記事の内容をより深く掲載できるようになった。表紙のデザインも洗練され、内容も充実。表紙は楽しみに必ず見る。両面の表紙に絵画を配して、イメージとしてはとてもすっきりした。サイズも基本としてはA4版が現在の基準文書の大きさであると思う。難解な表紙絵の理解に芥川喜好氏の「表紙を読む」解説が大変勉強になる。左から捲ると横書き、右からは縦書きになっていて『ロータリーの友』は特有で楽しい。全体的にコンパクト且つシンプルになり、以前より読みやすい。その次の行のグラビアがCONTENTSの前にあり、読ませるといふ工夫がみられる。バラエティに富み、構成が良い。写真の取り上げ方が良い。ユニークな記事が均等に掲載されており、興味を惹かれる等々の良くなったご感想が述べられております。その反面、不評として形態的に読後の保存に難点（back numberを揃える習性のある年代には不評ではないか。読み捨て派むきか）。従来のもと同様に整理できない。背表紙の文字が見えにくい。持ち歩けないので読まなくなった。B5版の方が便利である。製本の形態が変わり、やや砕けた印象、本棚に並べたとき時号数がわかりにくい、というような形態的に評判が良くないというような感想を述べられている会員もおられます。また内容的には、内容は良いが雑誌みたいだ。これは雑誌なんですね、教科書ではございません。週刊誌的になった、ページの表示方法を考えると、Rotary at Workの次が目次というのが気になる、読むのに量が多すぎる、大きくなったせいか、紙質のせいかページを捲りにくい、というようなご意見も出ております。

あと各論的に申し上げますが、[Rotary at Work]良くなった、巻頭に持ってきたのは良いアイデア。全国のロータリーの活動が写真付きで紹介されて、見やすく、説明文も簡単明瞭で良い。環境保全と新世代（スポーツ）に関する写真が多いのは嬉しい。カラー写真が大きくなり、集合写真が無くなったので、（これは編集部の今年度の方針でございます）見やすくなった。美しいカラー写真で、以前より読みやすい。各地区の行事が一目で判り、大変参考になる。ちょっと評判良くないのでは、写真サイズが小さい、写真サイズがバラバラなので、大きさを統一した方が見やすい。突然、写真特集が出てくるが、題字には注釈が欲しい「各クラブの活動ぶりを紹介する」とか。事業内容は判るが、結果的にアクト会員が何を果たしたのか判らない。これがRotary at Workの良くなった点と不評という感想でございます。

次は、[新世代のページ]良くなった、傑出して良い企画であり、是非続けて欲しい。このページが増えると素晴らしい。一番興味のあるところ。新世代委員会活動の手がかりが得られます。難しい委員会でも他のクラブの活動が判って助かる。わがクラブはインターアクト・ローターアクトを持たないので、知ることが出来、大変助かる。LACをスポンサーしているので、勉強になる。RAC



を大学に設置するのは良いアイデア。レイアウト、特にビッシリといっぱいにならないのが良い。若者が頑張っていることに対して敬意を表したい。古い会員にも有効。その反面、タイトルが判りにくい。タイトルの色と文字を検討したらどうか。時にはI serveかWe serveか、どちらに解釈しているのか戸惑う内容がある。

次は、[掲示板]良くなった、資料として貴重。改めて必要なページであることを知った。日本ロータリー分布図は判りやすい、翌月の予定欄は必要であると。その反面、もう少しひねったネーミングで親しみやすさが出たほうが宜しいと。

[友愛の広場]良くなった点としては、『ロータリーの友』の重要部分。読み物としては『友』の中で最高であり、教えられることが多い。毎号楽しく拝読。思いもかけない出会いに感激。自分のクラブに応用できそうなことが載っている。国内外の情報があり、大変参考になる。何時もホノボノとしたものを感じる。自分の抱える疑問など解決のヒントがある。ロータリアンの世界観が判る。時にハッとさせる名文がたまにある。不評としては、投稿文が長いと読み飽きる。友愛の広場は、ロータリー・リポートや「言いたい、聞きたい」欄と分ける必要があるのか意味不明。というようなご意見も出ております。

次は私が一番刮目しております[言いたい・聞きたい]欄ですね、良くなった、ロータリーそのものと思いますので必ず読みます。必要である。歯に衣着せぬ意見など(現RIの批判など)面白いし、賛同することも多い。ここが『ロータリーの友』誌の主要・必読記事。ロータリーのあらゆる部門の勉強と理解と反省のたたき台になります。確かこういうのは雑誌委員長さんのご回答の中にもあったと思います。自由な意見・思いを言えそうで良い。同じ悩みの人があることが判り、ホッとさせる有難いコーナーです。ロータリー哲学の受け取り方、考え方の勉強になる。投書箱より判りやすい題目。その反面、ロータリーの親睦から考えて余り深入りした質問が出来ない。言いたいことも同じですと。

[ロータリー・リポート]の良くなった点、真摯な各地区、各クラブの奉仕活動の紹介や、ロータリーの心を理解・促進するために好材料を提供されていて興味が湧く。ロータリアン各自がエンジョイ・ロータリーになろう。先程ガバナーもおっしゃってましたが、ロータリーを楽しもうと。楽しいロータリー、楽しい例会にしようという基本になるかと思えます。エンジョイ・ロータリーになろう

と。各地区・各クラブの活動内容にロータリーの無限の可能性を感じます。レポートの最後にある Annotationは用語が判りやすくて宜しい。「ロータリーの顔」だと思います。簡潔で判りやすい。その反面、感動・感銘・感謝と自画自賛が多い。Rotary at Workと内容的に同じ? Rotary at Workと関連づけられないか。というような感想も出ております。

【卓話の泉】卓話の手本で、この記事に近づける卓話を心がける。一番先に読む。必ず読み、心の糧にしている一番人気のコーナーです。大変良い記事が掲載されていて、週報に載せています。営業活動の題材に丁度宜しい。ミニ知識として勉強になる。反面、面白くないという方もあります。先程ガバナーも言われましたが、いろいろ人間、いろんな意見がありますが、100%同じ意見、100%満足の感想は無いものだと私も考えて読んでおります。

【ロータリー俳壇・歌壇・柳壇】良くなった、レイアウトが良くなった。毎月最初に開くページ。堅い読み物の合間の息抜きに、何時も楽しく読ませていただき、特に地区内外の投稿者の採用分には拍手を送り、共に喜びを分かち合う。その次が良いですね、妻が楽しみにしている。これは羨ましいですね、ひょっとしたらご夫婦ロータリアンかもわかりませんが。また、『友』を奥さんと一緒に寝物語じゃありませんけど読んでいらっしゃるのかもわかりません。秀作・力作ぞろい。愛好者が多く、自分も投稿してみたくなる。現在のまま続けて欲しい。反面、なかなか難しい。殆ど見ていない。初心者向けに入門の葉・コーナーがあれば良いのに。月間投稿者がどれくらいあるか興味があるので、投稿者数を枠外に掲載出来ないものでしょうかという問いかけもあります。これは後で二神委員長さんにもお訪ねしたいと思います。

【私の宝物】良くなった、面白いコーナー。初めての企画、息抜きに楽しい記事・読み物であります。「わが社の経営理念」とページを変えて掲載しているのは面白い。人様の宝物を見て価値の見方を習う。いいですね、成る程と思うそれぞれの宝物です。不評、折角の宝物であるのでカラー写真で紹介して欲しい。場所が目立たない。小さいので見落とす。写真が小さくて物足りない。品物は良く無い、無形なものなら良い。

【わが社の経営理念】経営理念・社是・社訓、やはり長く続いた会社は一本筋が通って凄い。読んでみて流石ロータリアンの経営者としての理念が読みとれ、模範となる会社が多い。経営の上でも、日頃の生き様の上でも参考になること多し。職業奉仕の原点とも考えられ、ロータリアンにとって極めて有益。小枠ながら胸を刺します、経営者の指針が光って参考にしています。今の時代、結構な企画です。東電・日本ハム・雪印、不祥事の起きた2002年の産業界の原因は、経営理念の欠如から……、是非継続を!と。反面、穴埋め記事の感じにしては小さすぎる。必要だろうか?というクエスチョンマークもついております。

【要望・提案】として、【全般】としては、右開き(縦書き)のスペースが前より少なくなっている。増やして欲しい。年に1回程度、米山・R財団の寄付行為、諸規定についての解説が欲しい。RI指定記事の表示は、目次欄にも欲しい。又、RI指定記事を強くPRする必要がある。「RI指定記事」の文字が小さいので見落とす。少し大きな文字で指示する必要がある。健康についての項目を入れて欲しい。会員の投稿も結構だが、プロの書き手による「読ませる」コーナーがあって良いのでは。綴じるための穴があればよい。読むのに量が多すぎる。いま少し量を少なくしてはというような

ご意見もあります。

〔Rotary at Work〕もう少しページ数を増やしたら。見出しを大きくしたらどうでしょう。委員会のコンセプトや苦勞話が伝わるコメントがあれば。同じ写真でも新世代のページが見やすいのは、表題と文章を新世代のページは分けているからではないでしょうか。

〔新世代のページ〕ページ数を増やして欲しい。若い会員にロータリーに関心を持ってもらうためにより充実を。

〔掲示板〕各クラブの住所変更・例会場の変更などの表示には、私がかねがね思っておりましたが電話番号も入れて欲しいということです。項目のタイトルをもう少し目立つように囲んでみては。次月号の主要記事内容紹介を少し大きめにされたら。地方独自の情報をもう少し載せて欲しい。これが掲示板への要望・提案ですね。

最後に〔友愛の広場〕ですが、海外のRC訪問記を期待します。それから、文章を短めに（100字以内に）と。以上が大体アンケート2の各論的な各テーマのアンケート内容設問に対する回答ですが、2番目の先程言いました雑誌委員長さん宛のアンケートの回答と相通じるものがたくさん見受けられました。最後にご多忙中この貴重なアンケートの回答をお寄せいただき、また読ませていただいた私自身も大変勉強になりました。皆様方の友情とロータリーの奥の深さと申しますか、改めて再確認を致しました。本当にありがとうございました。『ロータリーの友』を読むことによって、我々のロータリーライフが更に楽しく、日々の奉仕活動の糧になりますように心から祈念申し上げまして私のご報告を終わらせていただきます。長時間のご静聴誠にありがとうございました。

## 【講師 二神典子先生ご紹介】

1959年 島根県松江市生まれ	ロータリーに関する略歴、職歴
1982年 青山学院大学 法学部卒 法政大学大学院修士課程終了	1984年 「ロータリーの友」の事務所に入社
修士論文のテーマ「Public relations : 広報」	1992年 地区大会（ハウステンボス）参加
2000年 愛知学院大学博士課程で広告広報管理研究を 学ばれ、現在も大学院の研究員 日本広報学会会員	1993年 写真編集主任
趣味 パソコンいじり・パソコン	2000年 地区大会（アルカス佐世保）参加
	2002年 7月から編集局長

## 【新しくなった ロータリーの友】

只今ご紹介いただきました二神典子でございます。冗談で仕事が趣味だと申し上げましたら本当にそのように言っていたら、でもまんざら冗談でもないかなと。仕事というよりも半分遊びじゃないかと思われるような仕事の仕方をしておりまして、あちこち行かせていただいておりますけれども、一番極端なのは3月の中旬頃でございましたか、週の半ばに2510地区の札幌で雑誌委員長会議がございましてお伺いいたしまして、-3℃だったか-4℃だったかですが、その3日後に鹿児島で雑誌委員長会議がございましてとても暖かい思いをして、これで病気にもならず風邪にもならず、『ロータリーの友』の編集長の仕事というのは、頭の方の能力ではなくて、体力と健康かなと感じている今日この頃というところでございましょうか。

さて、2740地区には先程ご紹介いただきました前にも随分前になりますけれども、佐賀で地区大会がありました時にやはり取材に、これは取材に出始めたばかりの頃だったんじゃないかと思いますが、一度そういう記憶がございまして、でも雑誌委員長会議にお伺いするのは今回が初めてでございまして。今もご紹介がございましたように、これから【新しくなった『ロータリーの友』】というタイトルでお話をさせていただくことになっておりますけれども、又そのお話以上に今日楽しみに参りましたのは後ほどの質疑応答の時間を取っていただいたということで、皆様方の率直なご意見をお伺いさせていただけるんじゃないかということで楽しみにやって参りましたので、是非いろいろご意見とかご要望を頂戴出来ればと思っております。

さて、ご承知のようにならぬか先程来お話もございましたように、昨年7月号から『ロータリーの友』は少し雰囲気を変えさせていただきました。サイズや綴じ方に付きましては、皆様もお気づきだと思いますけれどもなぜそのようにしたのか。それから、他にどういった所が変わったのかという事につきましてお話し申し上げたいと思っております。ただその前に、この新しい『ロータリーの友』について考えますときに非常に大切になってくるのが、「広報・Public relations」というキーワードでございまして、本題に入る前に少し広報のお話をさせていただきたいと思っております。

先程ガバナーのお話の中にロータリーは広報が下手だというお話がございましたが、確かにロータ

リーというのは広報の下手な所かなっていうふうを感じる部分が多々ございます。広報というのは皆様方、良くご存知のように広く報じると書きます。今申し上げましたように、これは英語のPublic relationsという言葉の日本語訳でございます。この言葉が正式に広報という言葉に日本語訳にされたのが戦後間も無い1947年迎りのことだと伺っておりますけれども、本来はPublicというのは公衆、relationというのは関係ですから、公衆と良い関係を作る活動、もう少し詳しく言いますと公衆と良い関係を作るためのコミュニケーション活動と言うのでしょうか、そういうようなことだと思います。良い関係を作るのですから、今コミュニケーションというふうに申し上げましたけれども、こちら側から広く報じる、一方的に何かを、情報を発信するというのではなくて、相手のことを知るということも非常に大切になってまいります。そこで広報というのは、実は双方向の情報のやり取りという事が非常に重要になってます。私、広報学会という所に所属しておりますけれども、ここできっとPublic relationsという言葉の日本語訳をたぶん適切なものを作ったら、それだけでドクターが通るよと言われているくらいその言葉を皆さん悩んでらっしゃいます。適切な言葉を出すために、なかなか良い言葉がございませんので、広報だけではなくて、広聴、広く聴くということを当てて、広報広聴というふうにわざわざ言い当てたりしている場合もあるようでございます。

日本ではPublic relationsという言葉省略しましてPRと言って、そのPRという言葉は広告ですか、宣伝という言葉のちょっと洒落たかっこいい言い方というふうな言葉で使ったりしておりますので、ロータリーの場合、特に会員歴の長い方の中には「何も良い事をするのにそれを宣伝することはない。良い事は黙って行うものである。ロータリーには陰徳が大切だ。」とおっしゃる方が多くおられます。企業の場合は近年、この広報ということを英語でPublic relationsではなくてCorporate communicationsすなわち、先程もちょっとチラッと言いましたが、Communicationという言葉を用いて、表現しているところが多いようでございます。これは本場アメリカのみならず、日本企業でも最近お名刺をいただきますと、広報部、広報室という名称ではなくて、カタカナで非常に長くなりますけれどもコーポレートコミュニケーション部というふうにかかれた肩書きの付いた名刺をいただくことが結構増えました。ロータリーの場合はCorporateというのちょっと変ですから、Rotary communicationsという事になるのでしょうか。広報は広く報せるというふうに書きますから、やはり何か奉仕をされた場合などそれを報せるとなると、確かにちょっと抵抗を感じるというふうに思いますが、Communicationという言葉を使うと成る程と思っただけの方も多いかなというふうに思います。

さて、私は今日は雑誌委員長会議でございますけれども、こういった機会に広報委員長さんがご一緒されることもございまして、その時に広報に関するお話をもっと詳しくさせていただく機会もあるんですけれども、ある時にロータリーの広報って一体なんだろうって考えて広報、広報、広報ってずっと字を眺めていて思いついた事がございます。それは一般的には皆様広く報じる、広く報せるというふうにご字をお読みになられますけれども、そうではなくて報じるという字には、これ報道の報ですけれども報いるという意味がございまして、ですからこれを広く報じるではなくて、広く報いるというふうにご読み直すとロータリーの広報としては非常に理解しやすくなるのではないかなというふうに考えました。

ロータリアンの皆様が素晴らしい活動をされるためには、地域社会ですとか、国際社会のニーズが何処にあるか、先ず情報収集する必要があります。現在は、テレビ・新聞・雑誌という旧来のメディアに加えてインターネットというものが加わりまして、情報が氾濫している時代でございます。その多くの情報の中から自分たちに役立つしかも正しい情報を見つけるにはかなりの時間と、それから専門的な知識が必要になって参ります。では、時間とか専門的な知識が無い場合はどういうふうにしたらよいか、それは広報委員長さんがいつも疑問に思われるところかと思えますけれども、私は先ず情報を発信することだと思います。皆様のクラブでどういうことをしているのか、どうやったことが出来るのか、地域社会の人々に知ってもらうということは、とても大切なことだと思います。これは何もこれだけ自分たちが善いことをしましたというふうに自慢するわけではございません。ロータリーがやっていること、それから出来ることを周りの皆さんに知ってもらうことによってロータリアンの皆さん自身が気が付かなかつたけれども、ロータリーとしてお役に立てる問題とか、活動の情報をロータリアン以外の人から提供して貰うことが出来ると思うからです。相手から情報を引き出すためには、先ずこちらの手の内を見せることも必要な方法ではないかと考えます。この双方向のやり取り、これが広報活動ということになります。私もロータリーには陰徳が大切だという考え方にはとても賛成いたします。でも、飾らない原寸大のロータリーを知っていただくということも、とても大事なことだと思っております。

陰徳、先程から何回も使いましたが陰徳という言葉は、これは陰の徳と書きますけれども広辞苑には、「人に知れないようにして施す恩徳」というふうに書いてございました。ただロータリーの場合は普通の方が「自分はロータリアンになりたいよ」と手を挙げて中々やはり資格みたいなものがあって誰でもロータリアンに成れるわけではございません。それと立候補するというよりは、ロータリアンの皆様の推薦によってロータリアンに成れるわけですから、やはり周りの方がご覧になると非常に閉鎖された特殊な組織というふうに見られやすいというのも事実だと思います。ですから皆様が、陰徳、陰で徳を積んでらっしゃるつもりでも、一般の方には実はこれは、隠匿って皆様ご存知でしょうか？こざと辺にもう一個、悪事という意味の隠匿ってよくございますけれども、そのもう一個の方ですね、包み隠す隠れた悪事という方の意味の隠匿という言葉がございましてけれども、そちらの方に誤解を受ける場合のあるというふうに思います。やはりそういったことにならないように、充分気を付けなければならぬんじゃないかなというふうに思っております。

最初に新しい『ロータリーの友』に関係あるということで本当に広報の基本的なこうなんて言うんでしょうか、考え方意というのをお話させていただきましたけれども、実はこの広報とかCommunicationというキーワードがこの数年間私の頭の中を離れないで、いつも『ロータリーの友』はその為にどういうふうになればよいか、どうやって新しくすればよいかというのを考えておりました。そしてこの度、新しい『ロータリーの友』を考えると、やはりこの事が一つの大きなキーワードになりました。広報というのは、何も外部の人達とのやり取りだけではありません。内部の人、すなわちロータリアン同志でもお互いにどんな人がいて、どんなクラブがあって、どんな活動を知ることかという事は非常に大事なことだと思います。その為の広報活動、コミュニケーション活動にとって重要な役割を果たすのが、そして日本全国結ぶのが唯一『ロータリーの友』ではないかと考えております。

先程もお話がありましたけれども、『ロータリーの友』は1952～53年度、日本のロータリーが2つの地区に分かれたのをきっかけにして、お互い今まで一緒に活動してきたけれども、離れ離れになってしまった。でも地区が分かれてもやっぱり相手が何をしているのか、同じ日本のロータリアン同志だから、どんな会員がいるのか、そんなことを知っていたいというそういう思いで創刊されたという伺っております。創刊は1953年、昭和28年1月でございます。従いまして、この1月号で50周年を迎えたわけでございますが、先程のアンケートの中で50周年の記事が良かったって懐かしかったというご回答いただいて非常に嬉しい思いをいたしましたけれども、これが50周年に因みまして作った1月号でございます。実はもちろん50年という事は、5周年、10週年、20周年、25周年、30周年というふうに何周年記念と区切りは今までに何回か迎えておりますけれども、その度に5ページとか10ページの特集は組んでおりましたが、1冊丸々特集号にしたのは今回が初めてでございます。それだけ何か一つの大きな、50年というのは一つの大きな区切りだなというふうに考えたので、このようにさせていただいたわけでございますが。

それに先立ちましてやはり50周年に因んで、今までの50年の『友』の良いところを受け継いで、尚且つこれから50年『ロータリーの友』が続くためのその基礎づくりと言うんでしょうか、足固めと言うんでしょうか、その為の新しいものを取り入れていこうという話が出て参りました。先ず私が最初に考えたのが、その創刊50周年にあたって何かそれを象徴するようなキャッチフレーズが欲しいと思いました。色々考えたんですけども、非常に平凡な言葉に辿り着きました。それは「ロータリアンを結んで50年 ロータリーの友」というのでございます。そしてそのキャッチフレーズで考えてデザイナーの方にロゴを作ってもらいました。毎月この去年の7月号から、ずっと毎月毎月3ヶ所ずつ『ロータリーの友』にこの言葉と、このキャッチフレーズが出ておりますが、今メモを取られた方はきっとお気づきになってないんじゃないかな？と悲しい思いを致しておりますけれど。実は、縦横の目次の下に細やかに入れてございますので、ちょっと細やかすぎて品が良すぎたかなと最近反省してありますが。此処でございます。此処に入っております。縦の目次にも同じように入っております。それと50年を記念いたしまして横組みの方に『ロータリーの友』のバックナンバーから取りました「時の恵み」というコーナーを作っておりますけれども、そこにはもう少し大きく目立つように同じロゴが入っております。「ロータリアンを結んで」つまり「ロータリアンとロータリアンのコミュニケーションの掛け橋になりたい。今までよりもいっそう強く掛け橋になって皆様方のお役に立てる『ロータリーの友』になりたい。」その編集スタッフの思いを込めてこのキャッチフレーズを作ったということです。そしてこのCommunicationというキーワードから連想できるものをどんどん取り入れていったというのが、新しい『友』というわけでございます。『ロータリーの友』では一昨年4月号でございますけれども、『友』についてのアンケート調査を掲載いたしました。その時に非常に驚きましたのが、50歳以下の会員さんが殆ど読んで下さってないということです。50歳以下と言いますと、大体私と同年代の方という事でございますけれども、自分が作っているものが同年代の方に受け入れられてないって事は私にとって非常にショックが大きかったということで、今回、編集を見直すにあたりまして、私は先ず50代以下のロータリアンにどうやって読んでいただけるかという事を考えました。やはり50歳以下というどちらかというスタイルとか見た目にかかわる世代でございます。ですから

先ず見た目をどうするかというところから入りました。今回サイズを少し大きくして中綴じに致しましたけれども、これには2つの理由がございます。

1つの理由は今申し上げました。若い世代に馴染めるようにするという事でございます。私も色々な雑誌を購入してみますけれども、何処で読むか考えてみますと毎日の通勤電車ですとか、それから出張中の新幹線とか飛行機の中です。そして大体一生懸命本を読んでいると、ついつい降りるのを忘れてしまって慌てて降りるときにフッと気が付くと、こういうふうに半分に折って持って降りることがあります。それに気が付いて周りの方をよく見ていると、やっぱり特に男の方に多いと思うんですけどこういうふうに雑誌持たれる方多いと思うんです。特に若い世代の方に多いと思います。こうやって持ちやすい大きささと厚みというのを考えました。厚くても駄目だし薄くても駄目だし、大きくても小さくても駄目かなという事で、大体これ位からもう少し少ない位のページ数が1番持ちごごちが良いのかなというふうに思ってこれに致しました。実はこれA4版と思われてる方多いと思うんですけども、実はA4変型サイズでございまして。変型って何処が変型かといいますと、幅はA4と同じなんですけども天地がA4よりも少し小さいです。私が今持っている原稿がA4の原稿なんですけれども、これと比べますとおわかりになられると思います。これだけ小さいです。実際の寸法をいいますと17mm小さく出来ております。なぜ17mm小さくしたのかという事でございましてけれども、実は17mm小さくすることによって全体の形が正方形に少し近づきます。正方形に近づきますと、これはデザイナーに教わったのですけれども、横の広がり、特に見開きで横に開いたときに横の広がりが非常に出てワイドに、画面が広く見えるということ伺いました。それが1点です。

それからもう1つは、実は何年前に『ロータリーの友』の地区委員をされていた50歳位のロータリアンの方でございましてけれども、日経ビジネスの様な雑誌にして欲しいと言われました。そういうご要望が地区に色々伺いましたら結構多いことに気が付きました。ロータリアンの方というのは経営者の方が非常に多いので、日経ビジネスのみならず色々な経営雑誌をお読みになられている場合が多いと思います。この日経ビジネス、私、今持っておりますが実はサイズが同じでございまして。これA4と思われてる方多いと思いますが、これもやっぱりA4に少し小さくて。このように東洋経済ですとか、ダイヤモンドですとか、たしかプレジデントもそうかと思えます。綴じ方がプレジデントの場合ちょっと違いますけれども。サイズは大体、ちょっと1~2mmの差が物によってはございまして、基本的に『ロータリーの友』のこのサイズでございまして。そういう意味で非常にロータリアンの皆様には、馴染みの多いサイズではないかと。いきなりA4にするよりも、この方が良いんじゃないかというふうに考えまして、ちょっと中途半端ですがこういうサイズにさせていただきました。もう1つの理由なんですけれども、実はサイズを大きくして、それから前に、先程、背文字が無くなって読み難くなったというご意見もございましたけれども、実は前の綴じ方「無線綴じ」と言いますが、その綴じ方からこういうふうに背表紙の無い簡単な綴じ方にさせていただいて、これは1番大きなのはコストの問題がございまして。この綴じ方にしただけのために私共は年間一千万のコストダウンが出来ました。皆様方、クラブのコストに苦しまれている所だと思っておりますが、私共もやはり会員が減られているということは、実は『友』の部数も減っております。最高の時からすると現在約2万部減っております。と言うわけでコストダウンも考えなければいけません。そういう意味でこの一千万というのは

非常に貴重なお金ということでございますので、ご不便をおかけすると思いますが、その辺はご理解いただければと思っております。

さてデザインが良くても、中身が面白くなければどなたも読まないというのは事実でございます。『ロータリーの友』の中身を検討するに当たりまして、私が1番参考にさせていただいたのは、実は今日のような雑誌委員長会議にお伺いしました時の皆様方のご意見でございます。多くのロータリアンの中からストレートに『『ロータリーの友』は何でつままないんだ。とてもつままない。』とはっきりと言われたことがたくさんございます。そこで、なぜ『ロータリーの友』はつままないのかという事を私なりに色々考えてみました。日本の『ロータリーの友』は日本全国約12万名のロータリアンの方が読む雑誌で、その12万人の会員全員を意識して作っております。万人に向くとえば非常に聞こえが良いのですが、言い換えれば誰にもフィットしない雑誌だったんじゃないか、そういうふうに考えました。ロータリアンの皆様は、ロータリアンという共通点はあっても年齢も職業も会員歴も、それから趣味も、住んでいらっしゃる地方もバラバラでございます。色々な方がいらっしゃいます。色々なクラブがあります。色々な地区があります。『ロータリーの友』は国際ロータリーR I公式地域雑誌に指定されておりますので、そういう国内の情報に加えましてR Iから指定された記事を入れなければなりません。そういう事をして作っておりますと、やはりどなたが読まれても当たり障りの無いよう作らなければならない。こういう宿命を持っておりました。洋服で言えばフリーサイズの洋服をしかもキチンと仕上げないで仮縫い状態で出していたのが今までの『ロータリーの友』だったと思います。でも、やはり皆様方に読んでいただく為には、どっかの部分皆様方一人一人が自分にピッタリ合ってるなという事を感じていただかなければいけないんじゃないかと考えました。既製品の洋服でもやはりいろいろなサイズがございますし、色々なデザインもございます。ですから全部でなくにしても、この『ロータリーの友』の1冊の内のどこかの部分、1年間の内のどこかの記事が自分にピッタリ合ってる。そう思われるような作り方をして行きたいなというふうに考えました。そこで最初に思いついたのが、これも皆様方の意見からの中でいただいた事で一番多かった事でございますけれども、新会員のページを作りたいというご意見が非常に多くございましたので、今年度から「新会員ノート ようこそロータリーへ」というタイトルで新会員向けのページを作ることに致し



ました。ここにはもちろんロータリーに関する解説、やさしい新会員さん向けの解説も載せませうけれども、唯の解説とか用語の説明になっては余り面白くございませんので、この中には新しい会員さんの「ロータリーの此処が不思議だと思ふ」とか「こういう事考えている。こういうところが、もうちょっとどうにかならないかな」っていうようなご意見も載せさせていただくことに致しました。それから、逆にそれに対する先輩の会員の方のアドバイス、意見というのも載せさせていただくことに致しました。今後は新会員さんの取材とかも、させていただくといいのかなというふうにも考えております。これは新会員のページではございますけれども、ここにいらっしゃる先輩のベテランのロータリアンの皆様にも是非お読みいただいて、新しい会員の方がどういうことを戸惑っていらっしゃるのか、どういう事を悩んでいらっしゃるのかを知ることによって、又クラブの色々な活動に役立てて戴ければと思っております。

それから、先程から賛否両論ございましたが、『ロータリーの友』の真ん中辺りに入っていた「Rotary at Work」と「新世代」写真で皆様方の活動を紹介するページを頭に持って参りました。実は今年度のビチャイ・ラタクル会長が「草の根のロータリアンの活動を」と言う事を盛んにおっしゃってますけれども、私自身も皆様方が汗を流された貴重な活動を是非大きく大事に取り上げたいという考えを前々から持っておりますので、そして又、活字離れというのが色々言われますけれども写真のページが頭に入れば、皆様非常に入りやすいんじゃないかというふうに考えまして、このページを最初に持って来ました。それとこればかりではなくて、出来るだけたくさん皆様方の生の活動、奉仕活動ですとか、個人ですとか、クラブですとか、地区ですとかのそういう実際の活動をたくさん掲載させていただきたいなというふうに考えております。最初に広報のお話を申し上げて広報で大切なことは情報の双方向性だと申し上げました。『ロータリーの友』にもそういう双方向の、意見交換のページがあればいいなと以前から考えておりました。今まで『ロータリーの友』には「投書箱」というロータリーについての意見とか、提案を言っていただくページがございましたけれども、「投書箱」という名前では何か一方的で言い放しっていう感じがして気になっておりました。そこで何か双方向の感じが出るネーミングが無いかと随分考えたのですけれども、なかなか良いネーミングがございません。中々思いつかなくて、思いつかないんだったら単純そのものずばりにしちゃった方が判りやすいかなっていうふうに考えまして、「言いたい 聞きたい」という名称に致しました。双方向と言いますか、それ以上に色々な方向から違ったクラブ、それから違った会員の方のご意見を載せてその意見交換、双方向で出来るページにどんどん成長してくれば良いなというふうに思っております。それから縦組につきましては、「友愛の広場」と「談話室」の差というか、良く判らないというご意見が非常に多くて字数だけの差じゃないのというご意見がかなりございましたので、なかなかその分けというのは難しい所もございまして、ある線を引かせていただきました。基本的には「友愛の広場」はエッセイを中心に。ですからロータリーに関係ないことも載せさせていただいております。「談話室」は、「ロータリーレポート」と改めまして、皆様方のロータリーに関する個人的な、又はクラブの、更に地区の活動をそういう報告の欄にさせていただきました。それから「わが社の経営理念」というコーナーを設けましたけれども、こちらにつきましては、ロータリーで今、職業奉仕が非常に大切だということを色々な方から伺います。その話が出る時に必ず、こう何ですか企業倫理の問題



というのが出て参りますので、その基本である経営理念をご紹介したら、皆様のお役に立てていただけるのではないかと、そういう発想で始めました。「宝物」については、あまり良い宝物が無いというご意見、アンケートの中にありましたけれども、私は本当に誰が見ても何百万、何千万で価値のつく物をここに載せてしまいますと、載せたために、ロータリアン以外の方にも読まれる可能性があります。それで何か盗難に遭われたという事になると大変です。実はこのねらいというのは、ご本人は大事だと思ってるんだけど、周りから見ると紙屑にしか思えないというような、そういうほのほのとしたコーナーになると良いなと思ってます。それから一番期待していたものが中々出て来ないんですが、是非ここにいらっしゃる方をお願いしたいのは、私の奥さんと言うのをご紹介していただくと有り難いかなというふうに考えております。今、お嬢さんとかお孫さんと言うのはあったんですが、奥様とかご主人というのは出て来ませんので、そういうのがどんどん出て来ると楽しいかなと思っております。

さてちょっと細かい話を致します。あのアンケートの中にもございました、字が大きくなって非常に読みやすくなった。どれ位大きくなったと思われませんか。実は『ロータリーの友』のおおざっぱですけれども、 $1/3 \sim 1/4$ 程度は前と同じサイズでございます。残りが少し大きくなりました。少しって言うとはどれ位かなと言う事ですけど、サイズで言いますと0.125mmでございます。ほんの僅かなんです。これだけで、すごく皆様大きくなったって感動していただいて有り難かったんですけど、ちょっとこれには秘密がございます。字が大きくなったというのではなくて、使う活字を変えたんです。コンピューターをお使いの方良くお判りになるかと思えますけれども色々な活字の種類がございます。同じ明朝体というのでもたくさんございます。私共と印刷会社とで共通して使える明朝体20種類くらい同じサイズに全部打たせまして、印刷と同じ状態で見本を出してもらいまして1番見やすく1番読みやすい物を選びました。ですから $1/3$ 位が同じ字のサイズで、残り大きくなったといってもたった0.125mmなのに、皆様それ以上に大きくなって読みやすくなったというふうに感じて下さったのだと思います。

さて先程「新会員のページ」を新設しましたって申し上げましたけれども、その他にもやはり今までの色々な感想としては、やはりRCとか、RYLAとか、PGとか、GSEとかそういう訳も判

らない英語の略語が出て来て読むのが大変だというご意見たくさん頂戴しておりましたので、こういうものを出来るだけ使わないように致しました。その方法は言葉によって違いますけども、例えばRCとかPGという言葉は最初に出て来た時、これは『友』も最初ではなくてその各文章の最初に出て来た時は必ずロータリークラブ、パストガバナーというふうになんか長いんですけどもカタカナで入れます。ただ字数に制約がございますので2個目からは最初の時に2個、3個出る場合はロータリークラブ(RC)みたいな形で入れてます。2個目からはRC、PGというふうにさせていただいております。それから例えばRYLAとかGSEというのは、その名前の方が良く判らないんだけど聞きなれている、通っているというものもございます。そういうものにつきましては、例えばRYLAの場合はRYLAというふうになんか今まで通りに書かせていただきますが、最初に出て来た時に〈ロータリー青少年指導者養成セミナー〉というふうになんか注書きを入れるように致しました。それから今まで目次の中にロータリー用語早分かりというのをに入れておりましたがそれを止めまして、その代わりに何か判りにくい言葉が出て来た場合は各欄の最後にAnnotationという注書きを入れることにしました。これは今までと違まして、ロータリー用語の解説だけではなくて、一般用語の解説もしております。それから関連するバックナンバーなども入れておりますし、今までにはちょっとまだあんまり例が少ないんですけども、必要であれば写真とかグラフとかもどんどん取り入れていきたいと思っております。

さて色々『ロータリーの友』の変更点についてお話をさせていただきましたが、今回一番大きな変更点は、実はこういう事ではないんです。一番大きな事、これは今まで原則として全部載せていた投稿原稿を、実は取捨選択させていただくようになったという事です。ただ取捨選択といいますが、今まで全部載っていたという大義名分のごさした『ロータリーの友』でも実は載せていなかったものがあります。それは個人的な中傷誹謗、地区内クラブ内のもめ事、それからロータリーでは語ってはいけないと言われている宗教や政治に関わるもの等でございますけれども、それは引き続き載せていません。これにプラスアルファしまして、幾つかございます絶対載せないもの。先程チラッと出て来ましたat Work写真のページの集合写真、それから実は『ロータリーの友』に送られている『友』の記事、古いと大変ご批判をたくさんいただきます。ここは早く改善しなきゃいけないと思ってる所ですが、皆様方から原稿が送られてくるのが大体平均して活動されて2~3ヶ月経ってからのものが多ございます。場合によっては1年、1番凄かったのは2年前の活動っていうのもございました。それが2~3件2年前っていうのがあったんですけども。今はちょっと最初ですから3ヶ月位は許容範囲にしておりますけれども、やはり半年、1年経って送られてきたものは、また次に活動される時には是非早めに送って下さいと言う事でお断りをさせていただいております。皆様お忙しくて非常に大変かと思っておりますけれども、出来るだけ活動されましたら1ヶ月以内に送っていただければ助かります。それで取捨選択というと、皆さん何をしているか、「じゃもう自分たちが送っても全部切り捨てられちゃうだろう」というお考えになるかと思うのですけれども、本当は取捨選択の目的はそこにあるのではございません。何を載せないかということではなくて、どういった物を載せるかという視点で原稿を選んでいきたいということです。どういった物かというのは、皆様方が今どういった物に関心を持たれているのか、どういう必要性を感じてられるのか、こういう事を中心に考

えていきたいという事です。それからR Iの色んな方針がございますけれども、そういうものも含めて考えていけたらと思っております。先程ございました広報、皆さんがポリオを知らない。実はこれは外の方だけではなくて、特にここ5～6年、10年以内の会員さんというのは、始った頃の経過をご存じ無い方もたくさんいらっしゃいますので、今度ポリオの特集を組みました。5月号に今準備しておりますけれども、R Iから指定記事で来ておりますのが大体12～3ページございます。私共で用意させてもらったものが大体たぶん7～8ページ位になると思っておりますので、まだちょっとページ数決定していないんですけども、過去のいきさつから入れまして、20ページ位の特集を組ませていただきたい。出来ればそういう入れ方をしますとロータリーでどういう事をやって来たかという事が非常に一般の方にも判ると思っておりますので、『友』を5月号だけ余分に買っていただいたりすると非常に有り難いと思っております。ついでに申し上げますと、1月号はある意味で日本のロータリーの、『友』の歴史でございます。ぜひ広報活動にもご利用いただきたいと思ひまして通常よりもかなり予備を刷らしていただいております。そういう意図によって何十冊とご購入いただいたクラブもございますけれども、ぜひ又ご検討いただければと思っております。

さて、いただきましたお時間がそろそろかと思ひますが。ロータリーの雑誌の購読というのは先程来お話がございましたように義務ということになっておりますけれども、実は皆様方は『ロータリーの友』購読の義務だけではなくて、ガバナーばかりではなくて、皆様方一人一人に『ロータリーの友』を作るという義務と権利がございます。どういうふうな義務と権利かと申しますと、やはり中身が、私達がいくら編集方針を考えましてもこの中身を埋めて下さるのは皆様方自身の活動でございます。皆様方がやはり色々な地域社会ですとか、国際社会そういった所のニーズにあった活動をして下さって、それを『友』に寄せていただく。そうする事によって『友』というのは、もっと楽しくなって、もっと面白くなって、もっと読まれる雑誌になるんだと思ひます。私共がいろいろと欄を考えたり、方針を考えたりするのは、あくまでもその補助という事に過ぎませんので、是非とも皆様方そういった素晴らしい活動をされて、その活動のお写真とかご原稿を『友』に送っていただければ、そして『ロータリーの友』は読むものではなくて作るものだという意識も持っていただければ幸いですと思ひます。今日はどうもありがとうございました。



## 【 質 疑 応 答 】

それでは、質疑応答の時間に入らせていただきます。本当に二神さんご苦労様でした。貴重な色んなご苦心とか、新しいロータリーにかける編集のしかただとか、最後に言われました『ロータリーの友』は読むものではなく作るものという事は、正に皆様が作るロータリーという事でございますので非常に感銘いたしました。それでは、まずちょっと訂正をします、参加者の欄で非常にすみませんでした。出席者一覧表で26が佐賀西となっておりますが、これは佐世保西の間違いであります。非常に失礼致しました。それでは質問をなさる方は挙手と所属クラブ名を言って質問をお願い致します。先ず、先程どちらの講演というかロータリーのアンケート調査のどちらでも宜しいのですが、まず挙手をして質問をお願い致します。どなたかいらっしゃいませんか？如何ですか？まず安福さん、ちょっとお願いしたいんですが。

パソコンの普及でインターネットというのがどんどん進んで参りましたが、クラブによってはクラブ会報を全部インターネットに掲載されているクラブもありますし、ガバナー月信も廃止したという所もあると聞いております。そういう事から考えると『ロータリーの友』という雑誌はどのくらい存続すると思われませんか？

二神さん、宜しいでしょうか？その場で宜しいかと思いますが。

そうですね、答えは良く判らないという答え、結論だと思いますが。良く判らないというのには理由がございます。作り方によって違うのではないかと考えております。ちょっと今日は広報の会議では無かったので詳しいお話を申し上げませんでしたけれども、やはりインターネットにはインターネットの媒体特性、それからこういう印刷媒体には印刷媒体の媒体特性というのがございまして、同じ記事を扱うのによってもその扱い方というのが変わってきますので、現在、私共で考えておりますのはそれぞれの特性を生かし、又それぞれのお好みになられる対象者ですね、年齢ですとか色んなことがあると思いますけれどもそういう事を考慮に入れながら、うまく相乗効果を出せるような作り方を考えたいなと考えております。そうすれば、たぶん実はテレビが出来た時に、新聞が無くなると大騒ぎをされたという話を聞いております。テレビで野球中継をするようになった時に、スポーツ新聞が売れなくなると大騒ぎをしたという話を聞きました。でも結果は逆で、テレビで野球中継をするようになってから、スポーツ新聞が売れ出したという話を聞きました。『友』もそうなれば良いなと思っておりますし、そういうふうにしなければいけないんじゃないかと。それが今後の私共の課題かなと思っております。

何か関連でも。

同じ事を言いたかったんですが、テレビが普及した時にもう一つ映画館も無くなるんじゃないかと言われました。一時期確かに映画館がどんどん減少して行きましたけれども、又やり方を変えて小さな映画館を一つの複合型の中に入ると。そういう事でまた生き残りを計り、未だ生き残ってるという現実もございましたので、同じ気持ちを持って質問したわけでございます。

ありがとうございました。他にございませんか？ どうぞ。

諫早クラブでございます。私はロータリー情報委員を2年やって来ました。この01年に手続き要覧が出る前の情報の混乱で大変苦労いたしました。現在の『ロータリーの友』じゃ無いんですが、前のやつに規定審議会のあーだ、こーだと。人間は人々居ってもいい。クラブはその何でしょうね、職業の代表じゃなくてもいい、例会しなくてもいいじゃないかという情報が一杯載ってきたんです。インターネットでもそういう事が入ってきたんです。情報委員としては大変困りましてね、今日『ロータリーの友』は義務で読まなければならない。あの手続き要覧は読まなくてもロータリアンですよ、今日のお話の中では、『ロータリーの友』にああいうことが書かれている事がどの程度必要というか、会員はきちんと知っとかないといけないかどうか。私はガバナー補佐になっておりますけども、ガバナーに色んな情報が飛び交いましたと。きちっと会員が知っとくべき情報はガバナー月信以外は信頼しませんと、お願いをした事があるんですね。ですから『ロータリーの友』というのは、そういうふうなR Iから来ると思いますが、どの程度の信憑性があるのか。そして、手続き要覧というのは遅いんですよ。ですからその間をどうするのか。そこ辺りを教えていただきたいし、『ロータリーの友』に載ったのはきちんとしたオフィシャルな情報なのかという点について教えていただきたい。

あの曾つでの『ロータリーの友』がどうだったというのは、色々と問題が無かったわけでは無かったかなというふうに思っております。それで、ガバナーとかパストガバナーの方でもある問題については意見が2つ3つに分かれることがございます。要するにそれに決定的な結論が出ないというものがございませうけれども。それに関して言わせていただければ、この7月号からは、そういうものについてはガバナー、パストガバナーの方も、ガバナーを前にしてとても失礼なんです、全部会員さんは平等なので同じ扱いにしましょうという事で、これは「言いたい 聞きたい」の方に載せさせていただく事に致しました。と言いますのは、定まっていない事、『友』の横組みの方に載せますとこれが定まっていないのに定まった事のように独り歩きしてしまったという実例を、現にそういう事があったという事だからです。横に書いていただきますのは例えば、ある事柄について定まった事。それからR Iの国際ロータリーの委員の方いらっしゃいますけれども、そういう方できちんと見解を出していただけるという場合は横組みにさせていただこうかなと思います。それで、ちょっと多少です私共もバタバタと申し訳なくて、ミスプリント等々もございませうけれども、この7月号から私共のスタッフは非常に今までの倍の時間働いております。なぜ倍の時間働かなきゃいけなくなったかという事なんですけども、私が非常に情報の信憑性という事にはかなり神経を尖らせておまして、全ての原稿、特にスタッフが新しくロータリーの事を良く知らないという事もございませうけれども、手続き要覧、

それからこれはR I本部の方のインターネット英語で書かれてある分ですね、それから私共の1階下にはロータリー文庫というとても便利なところがございますので、そういうものであゆる文献、それからロータリーの関係のものだけではない、それ以外のものは近所の図書館、その他外務省ですとか色んなところに問い合わせを出させて、全部数字にしても何にしても裏付けを取るようにしています。ただその中から100%確実という所までは中々いきませんが、大体『友』に載っていることは、要するにこれは正式になったから出していいよとか、ある程度定まったよというような特に横組みの場合はそのようにお考えいただいてもいいんじゃないかと考えております。

関連がございましたら。

『ロータリーの友』の編集長にお聞きすることでは無いかも知れませんが、所謂インターネット情報とかですね、そういう情報はカンポールの意味があるのかどうか、知らなきゃいけないとかというような質問ですけども、こういう情報が来ると非常に私達にしては、ガバナーからきつとくれば判る訳ですけども色んな情報があった時それは一つの規則なのか、単なる情報なのかそこ辺りの判断についてはガバナーにお聞きした方がいいのかもしれないですね。

ガバナーの方が良いのかもしれませんが、ホームページと言っても色んなものがございますので、ちょっとどれを指していらっしゃるのかが難しいと思います。正直に言わせて、私仕事柄、色んな地区とか色んなクラブのホームページを拝見致しますけども、実は古かったり間違ったりしている事もたくさんございます。地区についてはガバナーを始めその情報委員の方がそれぞれに責任をもって、ガバナー月信と同じように作ってらっしゃると判断させていただいていいのかなと。それからR Iの英語方の[www.rotaryorg](http://www.rotaryorg)というホームページがございますけども、これはロータリーとして正式な物として扱っております。多少たまに情報が間違っていることもございますが、これはかなりきっちりと正式な情報として出して、間違っているというのは単なるミスというふうに考える程度でいいのではないかと考えております。ただ、その他のものに付きましては残念ながらやはり信憑性という意味では現在ちょっと疑わしい物もあるのではないかとこのように考えております。こんな答えで宜しいでしょうか。

ありがとうございました。

ガバナーにお答えいただかなくていいですか？

皆様ご承知の通り今回の発行された手続き要覧に、地区大会は相変わらず2日以上3日以内、ロータリーの事を9時間以上というふうになっております。ですけど、現実にはあれはしなければいけないじゃなくて、出来たらやっていただきたいということに変わってるんです。だから私は地区大会は1日でやろうと思って、1日でやるつもりで始めました。しかしある人々から手続き要覧にはこう

書いてあるじゃないかと、あなた勝手に手続き要覧を変えていいのかという質問が来たわけです。だけどこれは要するに皆様ご承知の通り手続き要覧の黄色ページ、これは3年に1回の規定審議会で決められるべき事が殆どなんです。けども、白いページは理事会の度に変わる可能性あるという事をご承知置きいただきたい。理事会が勝手に変えることがあるという事。それを『ロータリーの友』に、ちゃんと書いていただきたい。言ったらいけませんね。私が出してる事になってるんですから、これはガバナー会が出してるんですから、書かなければいけないんですよ。そして皆様方に周知しなければいけないんだけど、手続き要覧がああいうふうに途中で変わってる事がある。地区大会の事は私がアナハイムに行った時に既に言われたんです。アナハイムに行った前年の11月の理事会で、そのような決定がなされてたんです。だけど2001年度版の手続き要覧は、元のままで出て来たという事です。そういう事もございますので、こういう点は是非『ロータリーの友』にお願いしておきたいと思えます。

付け加えさせていただきます。手続き要覧ご承知のように3年に1回しか発行されませんので、今ガバナーがおっしゃったようになり変わってる部分がございます。これR Iの方に私からも申し上げをした事もあるんですけども。要は理事会もですね、理事会決定の抄録というのしか『友』には載りませんが、あれの何倍も実は決まっています。そこは何処を見ればいいのか、何処を見たら判るのかという事なんですけど、これはコードオブポリシーという、手続き要覧の中にロータリーの章典というふうに日本語が入ってると思いますが、此処のみです。これは印刷物がなくて、その都度理事会等で変わったことはWeb上のコードオブポリシーの所があってそこが変わります。此処をチェックしていただくといいんですが、残念ながらこれは英語しかございません。日本語はあまりにも変わりすぎて翻訳をやってられないという見解なので、私の方は生意気にも日本のロータリアンの方はたくさん貢献してらっしゃるので、今のニーズで足りないんだったら人数を増やしてでも日本語にしていきたいと思います。これは印刷物に追いつかなくてもWebでもいいからそういうふうにしていただきたいというように。これは非公式ですけども、編集長セミナー等の時にはそういうご要望を雑誌には直接関係ないですけども非常に大事なことだと思えましたので、要望させていただいております。皆様の方から是非R Iの方にそういうお声を挙げていただければ幸いかと思います。

長崎中央クラブの志賀ですけども、偶々手続き要覧の事が出ましたんでガバナーか編集長かどちらかと思えますけども。手続き要覧の中にはIMという事が一つも出て来ないわけです。だからIMを解説する時に何処を引っ張ってあげればいいのかという事はどうでしょうか？それと序でにですね編集長に先程の明朝体は、あれは何かちょっとお聞きしたいんですけどね。

先に簡単な方からで文字を。明朝体っていいものは、あれは縦が太くて横が細い文字、雑な言い方ですが、すみません。『ロータリーの友』の本文は殆どそういう文字で全体がちよっと太い、同じような太さの太い文字、これはゴシック体。種類ですね、これは小塚明朝です。小塚明朝の太さは色々ございますけれども、基本が小塚明朝のBを使っています。この特徴は、MacでもWindowsでもどちら

のコンピューターでも使えるという事でございます。IMの方はガバナーにお任せします。

IMは項目としては確かに手続き要覧には出て参りません。ただ、ガバナーの任務の中（手続き要覧26頁）と出席の項（250頁）に記載があります。IMはなぜやってるかという、これはガバナーの考えでやってるわけでございまして、RIがやれといってるからやってるわけじゃなくて、これは自主独立の考えでやっているわけです。私はIMを皆様方ご承知のような形態で開いていただきました。結果は最高、地区内ロータリー活動に大変有益であったと思っています。したがって手続き要覧に開催に関する事は無いんですけども、地区のガバナーの考えで色々やってると思います。だから手続き要覧に無いことは、ロータリーの原理原則を逸脱しない限り、その地区毎に考えてやっていいんじゃないかと私は判断しております。そういうことです。

志賀さん、よろしゅうございますか。

何か判ったような、判らんような…

判ったような、判らんようなのがロータリーの良いところです。

他にございせんか。他に色々この機会に。はい、どうぞ。

編集長にお伺いしたいんですけども、全国からですね寄稿文というのですか色んなものが届くと思うんですけども、それは現状としては載せきれないようにあるのか、それとも少ないのか。現状はどうなんだろうという事と、先程取捨選択と言われましたけども、そうなると100個着いたとその内の1つ2つしか載せられないという様な事なのか、9割方載せられると言う事なのか、それとも苦勞して一生懸命写真を撮ったりして送っても載らなかったと。何時載るんだろう、何時載るんだろうと楽しみに見て最終的には載らなかったとこう言った所の対策というか現状っていうのはどうなんでしょうか。教えていただきたいと思います。

えーとですね、実はご投稿をいただいた方は知っていただくと思うんですけど、去年の暮れ位から受け取りの葉書が変わりまして、なぜ変わったかという。大体新しい「友」が少し浸透して参りました10月の後半位からでしょうか、急激に実は増えました、ご投稿が、現状ですね。特に去年の11月辺りが多くて慌てふためきました。ですから3～4割位しかお載せ出来ないと書いたお葉書をいま差し上げていますが、現状では欄によって違います。大体平均5～6割位いま載せさせていただいてるかと思います。ただ物によっては3～4割のページもございまして。アンケートの中にですね、実は「新世代のページ」が良いというご評判がございまして、このページが増えると素晴らしいと思います。これを増やしたいんですけども増やせないんです。此処は100%に近い状態で、記念撮影以外は全部載せてますけれどもこれしか来ないんです。たぶんクラブで交換学生の方、ここは財団奨学生

の方も入っていいんじゃないかと思えますけども、それからインターアクト、ローターアクトそういう関係のあるクラブたくさんあると思えます。そういう方々が素晴らしい活動をされていると思えますので此処にお写真をいただければ、記念撮影でなければ100%載ることを今の所ですが、確約させていただきたいと思えます。本来はお載せ出来ない写真、原稿に付きましてはその後事情を説明して、お載せ出来ないよという連絡をさせていただくのが、お送りいただいた方への礼儀と言いますか、筋かなというふうに考えておりますけども、先程申し上げましたように実はこの7月号から私がそういうふうに無理を言ひまして編集がタイトになったにも拘わらず、人数が、やはり予算の関係もございまして編集スタッフの人数が少なくなりました。ということで、現在うちのスタッフ達を10時11時まで働かせている状態。それから今日、私土曜日出て来てますが、ロータリーは会議やら地区大会やらが土日に多ございますので、実は土日に出張に出しまして代休を取らせてやれないような今現状で頑張ってくれておりますので、ちょっと言い訳のようで申し訳ないんですけども残念ながらお載せ出来たよとか、出来ないよという結論を、お葉書を出させていただくことが物理的に今かなわない状態でございます。大体、半年くらいお待ちいただいて載らなければ申し訳ないんですけども、載らなかったとご判断いただければ助かります。

どうもありがとうございました。すみません、私名前言うの忘れしました。長崎中央ロータリークラブです。

まだ、お時間がございますので、どなたか。はい、どうぞ。

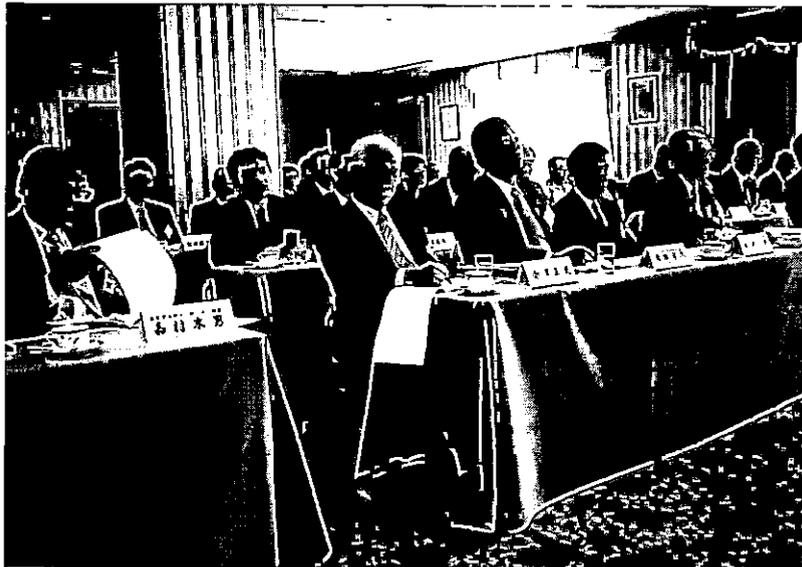
佐賀大和の堤と申します。2～3質問いたしますが、原稿をですなE-mailで送っていいのかというのを一つお伺いしたいと思えます。それから原稿の文字数等に付いての規定、見やすい規定があるかという事ですね。それから今お話で原稿がボツになるというのがあると。これは、出す側からすると落胆をする事ですから『ロータリーの友』のホームページか何かにですな、投稿はもう余程の選択が無いかぎり全部ホームページで載せていると。ホームページ以外に『ロータリーの友』が冊子になるというような対応性を持っていただいたら、私はみんなが一生懸命になるのではないかというふうに思えます。そして『ロータリーの友』のバックナンバーの購入方法ですな、これなども出来ればE-mailで簡単に出来るようにしていただけたら、皆さん方に浸透するのではと思えますが。よろしくお願い致します。

順番にお答えをさせていただきたいと思えます。『ロータリーの友』に関する投稿、E-mailですけれどもお受けしております。それでどこにそういう事が書いてあるのか、という事。3月号をお持ちの方がいらっしゃいましたら、3月号の51ページに投稿をお待ちしてますと書いてございます。2月号は載せたかな？今手もとに2月号をお持ちの方いらっしゃいますか、それから今度4月号56ページにも派手に書いてございます。ここに色々、最近デジタルカメラでお写真撮られる場合とか、E-mailで送っていただく場合のご注意点を書かせていただいております。ちょっとここにに入れてなかった、

ある事情があって入れなかったことがあるんですが、その事情が解決しそうなので此処でご報告いたします。デジタルカメラとかで撮影された場合E-mailで送っていただく時に皆様がちょっと容量の少ないE-mailとかを使われると、画素数、せっかく今200万とか300万とかいいデジタルカメラとかを使ってらっしゃるのに、画像の解像度を落として送られます。そうすると先程の投稿、アンケートの『友』の写真、at Workの写真をもう少し大きくしろ。これを大きく出来ない理由は画素が足りないというのも結構ございます。それから写真のピントが合っていないというのもあります。ですから出来れば画素数を落とさないで送っていただきたいんです。ただ今これを表示しなかったのは、画素数を落とさないで送っていただくと私共の方がパンクをしてしまうという事情がございました。この1ヶ月位の所で光ファイバーっていうんですか入れまして、そういうのに対応出来るように致します。実はこの4月号にですね、ロータリーの雑誌月間でございますので、雑誌に因んだ特集を何本か入ってます。その中にロータリー・ワールドマガジン・プレスこの事はあんまり聞かれたことが無いと思いますが、去年の11月の理事会でこのように決まりました。ロータリーの公式機関誌のザ・ロータリアンと今30誌でございますロータリーの地域雑誌を総称してロータリー・ワールド・マガジン・プレスと呼ぶ事になりました。ちょっとその名前を紹介しがてら、各雑誌をこういうふうに掲載してますけども、私どもこの30誌、ザ・ロータリアンと、うちの雑誌を除くと29誌、よその地域雑誌がありますが、その内の20誌位はいただいているんですけど後9誌位が着てなくて。これをR Iの本部に言って送ってもらいました。うちの雑誌に載せたいと言ったらうちの雑誌に耐えうる画素数で送ってきまして、それがどれ位かという本表紙1枚くらいに対して5メガ位ありまして、ISDNで受け取ってる我が事務所は5時間掛かりました。私のコンピューター実は5時間使えなくて、えらい思いをしましたけれども。そういうことが無くなると思います。5メガは要りませんけども、大体なんか50キロバイト位が多いんですが、出来れば1メガ位の写真を送っていただくと大きくも出来ますし助かります。只すみません、それは5月以降位にしていただければ更に助かりますので、よろしくお願い致します。後それからまだございましたよね。内々の会議と思わせていただいて、忌憚の無いざっくばらんな意見を申し上げますと、投稿して5割と申しましたが、5割の内の例えば写真に関して言えば未だにやはり記念撮影でございます。記念撮影じゃないものに取り換えていただいたりすることもあるんですけどもやはり、中々良い写真がなくて、それでWebに載せるとしても、多分写真の場合は耐えられない物が殆どかと思えます。それから原稿につきましても、非常に報告書的なものが多くて、ただこう時間とか場所だけを並べてある。というようなことで、お読みいただいてあまりお役に立たないと、正直な事を申し上げればそういうものが多ございます。中でもちょっと珍しい活動については私どもで電話をして、こういうことが原稿としては、そのちょっとつまらいと言ったら語弊がありますが、報告書すぎても、きっと皆様のお役に立ち得るであろうというものを、私どものスタッフがお電話をして根掘り葉掘りインタビューをさせていただいて原稿にしてお書きいただいた方に、送っていただいた方にもう1回チェックをしていただいて載せるということをしておりますので、実は5割位と言いましても大体これ位がいただく原稿の中で限界ではなからうかと。その辺についてもどういいうご原稿が皆さんに読んでいただきやすいかと言う事も含めて又『友』で追々、また今日は時間ございませんでしたけれども、そういう話も色んなところでさせていただければなど。基本は週報とガバナー月信と

違っている所は、全国のロータリアンの方がお読みになられますから、基本的に皆様方のクラブですとか、街のバックグラウンドを知らない方が読まれると、それを頭に入れて下さって説明を加えて下さると、大体『友』に載せられると思いますのでよろしくお願い致します。

時間が参りましたが、もう一つだけ今回の『ロータリーの友』に付いてのご意見で今の『ロータリーの友』は最高と書かれていらっしゃいます松浦の方いらっしゃいますかね。もうお帰りですかね、松浦の方。今日はお見えじゃないですかね。ご意見を伺おうと思いましたが。いやいや編集長しっかりやっていますので、応援歌と思ってね、言っていたらこうかなと思いましたが。いらっしゃらないですね。それでは時間が参りましたので、これで質疑応答を終わります。ありがとうございました。



## 【 所 感 】

ガバナー 隅 田 達 男

皆様ありがとうございました。二神編集長は昭和59年に『ロータリーの友』に入られました。それから今まで彼女が仕事をしつつ、心の中で温めてきた『ロータリーの友』のベストは何かということが、今ここに実現されていることだと私は思います。広報というものに対して如何なることがベストであるかという事を心の中で暖め続けて、今回幸い編集長になられて、そして今実現なされた。誠におめでとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

それから皆様、人間何が一番悲しいですか？一番悲しいことは無視されることですよ。犬だって無視すれば悲しい顔をします。だけど今日、小濱先生が一生懸命お忙しい中で努力なさって集められたアンケートを見ると、皆さん『ロータリーの友』を読んでるんですね。私は先程読んでないと言ったことを本当に反省いたしました。それほど読んでいただいていると言う事は素晴らしい事なんです。だけど私の月信は読んでらっしゃらないですね。読んで下さいよ、一生懸命作ってんですから。毎月原稿まだですか、まだですかと言われつつ、やってるんですから読んで下さい。どうかよろしく願います。今まで、曾つての『ロータリーの友』と言うものが、皆様のご意見で色々あったと思いますけれども、過去は変えることは出来ませんから、もうそれはそれとして置いて、今後の50年、要するにあと50年ですね『ロータリーの友』創刊100年に向けて二神編集長がどういう事を為さるかということが、一番大事なことであると思います。そして今、素晴らしいと我々は言ってますけれども10年先に彼女が、もし今のままの状態でマンネリ化したのを作ればですね「もうこれは、おもしろくない」とはっきり言いましょう。やはり皆様「改革は力」です。ありがとうございました。

## 【閉会の辞】

地区クラブ奉仕委員長 安 福 鴻之助

皆様、長時間の会議お疲れさまでした。ロータリーは再来年2005年に創立100周年を迎えます。ただ歳月を重ねれば尊いというのではなくて、歴史を重ねながらやはり伝統というものを作っていかなければならないと私は思います。『友』は創刊50周年の今年、二神新編集長の許に素晴らしい刷新をされました。ちょっと一言付け加えたいんですが、その陰ですすねスタッフの人件費を抑えるために編集部の人間を、私は2年前にも『ロータリーの友』に出向したんですが、その当時から確か2人位減らしてられるんじゃないかと。仕事量もものすごく増えてご苦労なさっておりますが、そういう努力を重ねながら素晴らしい刷新をなされました。私はそういうご苦労を知りながら皆さんにも認めていただきたいと思いながら、ぜひ創刊100周年を目指してですね、先程ご紹介しましたが編集長、現在43歳です。100周年の時には93歳で、たぶんまだ生きておられると思いますので。50周年を経験した元編集長という事で又ずっとこれからも指導をしていただく、その時にもそういう事で誌上に登場していただく事を期待しながらこれを持ちまして、R I 2740地区 クラブ雑誌委員長会議を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

# 国際ロータリー第2740地区 クラブ雑誌委員長会議 報告

ロータリーの友 地区委員 小 濱 正 美

## 雑誌月間に因み

- ・ ロータリアンは常にロータリーを知らなくてはなりません、それを知るための最も身近な存在が「友」であります。
- ・ 「ロータリーの友」は読むだけのものではなく、我々が作るものだという意識を持ちたい。

表記、委員長会議は2003年3月29日（土）13：00～16：00、佐世保市ハウステンボスJ R全日空ホテルに於いて開催致しました。

出席者は別掲の如く隅田達男地区ガバナーを始め、田尻徳磨地区幹事、第1グループ堤和之ガバナー補佐ほか8名のガバナー補佐、地区クラブ奉仕委員会安福鴻之助委員長、地区ロータリー情報・広報委員会の太田喜久委員長、田中丸治樹・木場耕志両委員、各クラブ雑誌委員長は佐賀ロータリークラブの荒尾真人委員長ほか47名の委員長、合計63名の方々にお集まり頂きました。特に今回は東京の「ロータリーの友」事務所より二神典子編集長にも出席を頂き、前述の特別講話を頂きました。

会議次第は別掲のように木場耕志委員の司会で、太田喜久委員長の開会の辞に始まり、田中丸治樹委員の出席者紹介、隅田達男ガバナー挨拶の次に、議事として『友』地区委員の小濱から①地区会員に対する②地区内クラブ雑誌委員長に対する「ロータリーの友誌についてのアンケート」集計の結果の発表を45分行い、次いで「ロータリーの友」二神典子編集長より【新しくなったロータリーの友】という演題で45分の特別講話をいただきました。その後約45分の質疑・応答の時間を設けましたが、「友」に関する活発な質疑発言と二神編集長の明快な回答、隅田ガバナーからの補充回答も頂き、陽春の午後のひとときを誰一人居眠りされる方も無く有意義に、真剣に、しかも和気藹々の中にアツという間の3時間の会議を終わりました。

議事報告の中で、私が発表しました「ロータリーの友に関するアンケート集計結果」の資料冊子は当日出席された役員・委員長の方々には各一冊ずつ差し上げましたが、別掲のアンケート2部①クラブ会員あて②クラブ雑誌委員長あての回答・集計結果一覧表の概要をご参照下さい。雑誌月間に因み、各クラブ例会では委員会報告の形で、委員長さんから当日の会議模様などご報告もあったかと思いますが、関心のあられる会員の方は雑誌委員長さんの資料をお読み下さい。

アンケート回答率は、

①地区内会員あて（クラブ会長経由） 58クラブ中…回答53クラブ 未回答5クラブ（回答率91.4%）

②各クラブ雑誌委員長あて 58クラブ中…58委員長（回答率100%）

でした。お忙しい中をご回答いただきました皆様に心から厚く御礼申し上げます。

なお、二神典子「友」編集長の特別講話並びに「友」誌に関する質疑応答・アンケート集計結果は

ガバナー月信の別途付録としてでも、掲載させて頂きたいと思いますのでご高読下さい。

ロータリーの友4月号は雑誌月間特集号として、第5回ガバナー座談会【新しくなったロータリーの友】というテーマで5人のガバナーが本音でいろいろ話しておられますし、司会の小池「友」編集顧問も、新しく変わった「友」の編集苦心談を代弁しておられます。

また、「ロータリーの友のどこが新しくなったのか?」「ロータリー・ワールド・マガジン・プレス」【Q&A ザ・ロータリアンの内側】の雑誌月間特集記事も是非ご一読下さい。特に二神編集長が「友のどこが新しくなったのですか?」には、

- ① 創刊50周年を迎えて『友』を見直し
- ② サイズと製本方法が変わりました
- ③ 身近な活動を前面に出しました
- ④ 少しでも早く情報を届けたい
- ⑤ 難しい情報をわかりやすく
- ⑥ 「新会員ノート」を新設しました
- ⑦ 投稿のページを整理しました
- ⑧ 取捨選択を始めました
- ⑨ 身近なところに置いてください

の9項目に分けて、雑誌委員長会議の特別講話と重複するかも知りませんが、実に判りやすい解説を試みています。特に「本棚に大事に飾ってあるのではなく、親しみを感じてロータリアンの皆さまが何時も持ち歩いてくださり、ボロボロになってしまう。そんな『友』であってほしいと思います。『友』の情報は本棚ではなく、皆様の頭の中に、そして心の中にしまってください。」の最後の言葉はまぎれもなく、きめ細かな配慮の下に「良い仕事をしたい」女性編集長の心意気を表しているものではなからうかと思えます。

## 出席者一覽表

地区ガバナー	隅田達男(伊万里)	クラブ雑誌委員長(又は情報・広報委員長)		
友 顧 問	福井 順(長崎南)⊗	1 佐賀RC 荒尾 真人	21 唐津西RC 松本 仁	41 大村東RC 前川 貞良
友 編 集 長	二神典子	2 小 城 倉 永 圓 幸	22 伊万里西 安藤 哲也	42 諫 早 谷 川 則 仁
友地区委員	小濱正美(長崎南)	3 牛 津 森 山 寿美男⊗	23 唐津中央 峰 数馬⊗	43 諫早北 辻本 隆
地区幹事	田尻徳麿(伊万里)	4 多 久 下 田 龍 二	24 佐世保 西村 正一郎	44 諫早西 平 武
地区副幹事(クラブ奉仕担当)	金子 博(伊万里西)⊗	5 佐賀大和 上野 倫五	25 平 戸 中 島 博	45 諫早多良見 小鳥居 湛
地区ガバナー補佐		6 佐賀西 吉野 徳親⊗	26 佐世保西 浜田 和明	46 諫早南 横田 峰幸
第1グループ	堤 和之(佐賀大和)	7 佐賀北 福岡 英信	27 北松浦 松尾 清治	47 長 崎 木 場 耕 志
第2グループ	竹下敏昭(佐賀西)⊗	8 佐賀南 園田 嘉生	28 松 浦 百 武 祐 二⊗	48 福 江 北 島 博 志
第3グループ	谷嶋正信(嬉野)	9 神 崎 小林 正明	29 生 月 豊 永 完 治⊗	49 長崎北東 和仁 延俊
第4グループ	荒木月秋(伊万里西)⊗	10 佐賀空港 権藤 幸彦	30 佐世保南 江崎 梅太郎	50 深江中央 野田 直幸
第5グループ	飯田 清(佐世保西)	11 有 田 池 上 清 司	31 佐世保東 林田 市也	51 長崎西 徳安 恂
第6グループ	太田義史(HTB佐世保)	12 武 雄 樋 渡 千 春⊗	32 佐世保北 岡井 正明	52 長崎琴海 長谷川 宏
第7グループ	南野 健(大村北)	13 鹿 島 北古賀 正昭	33 佐世保中央 山川 満伸	53 長崎北 三木田 鋼次郎⊗
第8グループ	嘉村末男(諫早)	14 嬉 野 堤 好 幸	34 佐世保東南 梁瀬 暢彦	54 長崎南 宮崎 哲郎
第9グループ	田中紀男(長崎北東)	15 大 町 田 代 進⊗	35 HTB佐世保 石丸 慶太	55 長崎東 北川 常廣
第10グループ	志賀定義(長崎中央)	16 白 石 藤 井 繁 治⊗	36 大 村 江 口 照 年	56 東長崎 古賀 豊太郎
クラブ奉仕委員会		17 太 良 所 賀 廣⊗	37 島 原 宮 崎 正 光⊗	57 長崎中央 井筒 亮平
地区委員長	安福鴻之助(佐世保)	18 唐 津 辻 幸 徳	38 雲 仙 石 田 惣 一	58 長崎出島 今村 茂雄
ロータリー情報・広報委員会		19 伊万里 川原文司	39 大村北 佐藤 正忠	
地区委員長	太田善久(唐津東)	20 唐津東 岩崎 真二郎	40 島原南 永橋 秀光	
地区委員	田中丸治樹(伊万里)			
〃	木場耕志(長崎)			
〃	工藤英一(長崎南)⊗			

## 「ロータリーの友」に関するアンケート

1. 本年7月号から誌面を一新（A4変型版、中綴じ）しましたが、以前の号と比較し

イ. 良くなった      ロ. 変わらない      ハ. 悪くなった

全体の感想をお書き下さい

2. 記事内容についての感想

Rotary at Work

新世代のページ

掲示板（旧告知版）

友愛の広場

言いたい 聞きたい（旧投書箱）

ロータリーレポート（旧談話室）

卓話の泉

ロータリー俳壇、歌壇、柳壇

私の宝物（新設）

わが社の経営理念（新設）

---

「ロータリーの友」からの出版物について

全国RC会員名簿（残数）あり    ロータリー手帳（完売）の内容への要望

ロータリーソング 楽譜集・CD購買は

イ. 既に購入      ロ. 購入の意思あり      ハ. 不要

クラブ雑誌委員長様

『ロータリーの友』誌アンケート

記入日 平成 年 月 日

●ロータリークラブ名 \_\_\_\_\_ RC ●クラブ雑誌委員長名 \_\_\_\_\_

●クラブ事務局 \_\_\_\_\_  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

●会員数 \_\_\_\_\_ 人 ●毎月の『友』購入数 \_\_\_\_\_ 冊

①「ロータリーの友」誌を毎月、何週目に配布していますか。

- (1) 1週目 (2) 2週目 (3) 3週目 (4) 4週目

②毎月配布の際、雑誌委員会が内容を解説していますか。また解説するのは何分くらいですか。

- (1) 解説する \_\_\_\_\_ 分くらい (2) 解説しない

解説しないとお答えになった方は、解説しない理由があればお書きください。

③「ロータリーの友」誌の講読はロータリアンの義務であることをご存じではない方がいると思いますか。

- (1) いると思う \_\_\_\_\_ (2) いないと思う \_\_\_\_\_

いると思う、とお答えになった方は、どうすれば義務であることを知ってもらえると思いますか。

④「ロータリーの友」誌を毎月どの程度お読みになりますか。

- (1) 毎号楽しみにしていて精読する \_\_\_\_\_ (2) 一通り目を通して興味のある記事を読む \_\_\_\_\_  
(3) あまり読まない \_\_\_\_\_ (4) ほとんど読まない \_\_\_\_\_

雑誌委員長のお立場で、ロータリアンによく読んでいただくためには、どのようにすればよいとお考えですか。

・『ロータリーの友』が [ \_\_\_\_\_ ]

・ロータリークラブが [ \_\_\_\_\_ ]

・ロータリアンが [ \_\_\_\_\_ ]

すればよいと思う。

⑤クラブ雑誌委員長として今年度特に力を入れたことは、どんなことですか。

⑥雑誌委員長としてのお立場で『ロータリーの友』をロータリアンがどのように活用したらよいとお考えでしょうか。また、実際の活用事例があったら併せてお書きください。

⑦パソコンなどでR J W (Rotary Japan Web) のホームページをご覧になったことがありますか。

- (1) ある (2) ない

「ある」とお答えになった方は、ご覧になった感想をお書きください。  
「ない」とお答えになった方は、ご覧にならない理由をお書きください。

⑧創刊50周年を期に『ロータリーの友』誌のサイズやレイアウトなどを新しくしました。  
新しい『ロータリーの友』誌についてのご感想をお聞かせください。

⑨『ロータリーの友』誌に関する、ロータリアンからの全般的なご意見のうち、主なものを3つお書きください。

①

②

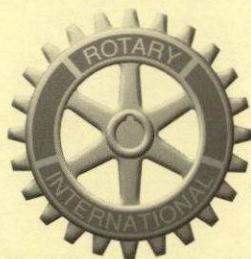
③

ご協力ありがとうございました。  
恐れ入りますが2003年〇月〇日必着にてガバナー事務所にFAXでお送りください。  
地区ガバナー事務所 FAX〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

資料3. 集計一覽表

クラブ名	2/28 アンケート 回答	会員数	「友」 購入数	+	設問1	設問2	設問3	設問4	設問7	クラブ名	2/28 アンケート 回答	会員数	「友」 購入数	+	設問1	設問2	設問3	設問4	設問7
佐賀	○	83	82	-	1	2	2	2	1	佐世保南	○	88	88	0	1	2	2	2	2
小城	○	35	35	0	1	1	1	2	2	佐世保東	○	44	46	+	1	2	2	2	2
牛津	○	33	25	-	2	1	2	2	2	佐世保北	○	57	57	0	1	2	1	2	2
多久	○	41	41	0	1	1	2	2	1	佐世保中央	○	54	54	0	1	2	1	2	2
佐賀大和	○	29	30	+	2	2	1	2	1	佐世保東南	○	20	21	+	2	1	2	2	2
佐賀西	○	52	52	0	1	2	2	1	1	HTB佐世保	○	33	33	0	1	2	2	2	2
佐賀北	○	43	43	0	1	2	2	2	2	大村	○	49	60	+	1	2	2	2	2
佐賀南	○	40	40	0	1	1	2	2	2	島原	○	42	45	+	1	2	2	2	2
神埼	○	30	35	+	1	2	2	2	2	雲仙	○	34	28	-	1	1	2	2	1
佐賀空港	○	17	19	+	3	2	1	3	2	大村北	○	39	40	+	1	2	2	1	2
有田	○	40	40	0	1	2	2	2	2	島原南	○	23	26	+	1	1	2	2	2
武雄	○	57	57	0	1	2	2	2	1	大村東	○	42	45	+	1	1	2	2	2
鹿島	○	50	50	0	1	2	2	2	2	諫早	○	72	75	+	1	1	2	2	2
嬉野	○	34	34	0	1	2	1	2	2	諫早北	○	64	64	0	1	1	2	2	2
大町	○	40	40	0	2	2	1	2	2	諫早西	○	49	50	+	1	1	2	2	2
白石	○	27	32	+	1	2	1	2	2	諫早多良見	○	45	45	0	1~4	2	1	3	2
太良	○	14	14	0	1	2	1	3	2	諫早南	○	46	46	0	1~2	2	1	2	1
唐津	○	55	58	+	1	2	2	2	2	長崎	○	104	110	+	1~2	1	2	2	2
伊万里	○	46	58	+	1	1	2	2	2	福江	○	48	55	+	3	2	2	3	1
唐津東	○	61	63	+	1	1	2	2	2	長崎北東	○	61	60	-	1~4	2	1	3	2
唐津西	○	47	55	+	1	2	1	1	2	福江中央	○	42	48	+	1	2	2	2	2
伊万里西	○	53	54	+	4	2	2	2	1	長崎西	○	75	85	+	2	2	2	2	1
唐津中央	○	51	55	+	2	1	1	3	2	長崎琴海	○	20	20	0	1	1	2	2	2
佐世保	○	90	93	+	2	1	1	2	2	長崎北	○	79	83	+	1	2	2	2	2
平戸	○	43	50	+	1	2	2	2	2	長崎南	○	90	95	+	1~4	2	2	2	2
佐世保西	○	42	45	+	1	2	1	2	2	長崎東	○	80	80	0	1	2	2	2	1
北松浦	○	35	45	+	1	1	2	3	1	東長崎	○	46	50	+	1	1	2	2	2
松浦	○	48	48	0	2	2	2	2	2	長崎中央	○	63	66	+	1	2	1	2	2
生月	○	24	24	0	1	2	1	2	1	長崎出島	○	63	63	0	2	1	2	2	1

Sow the Seeds of Love



慈愛の種を播きましょう

2002～2003年度 国際ロータリーのテーマ

国際ロータリー第2740地区 ガバナー事務所

〒848-0027 伊万里市立花町4011 龍第1ビル2階

tel (0955) 20-9333

Fax (0955) 20-9335

E-mail : ri2740ts@juno.ocn.ne.jp